

**龍谷大学大学院
文学研究科臨床心理学専攻**

設置の趣旨等を記載した書類

平成 23 (2011) 年 4 月

■ 目 次 ■

ア	設置の趣旨及び必要性	1
イ	修士課程までの構想か、又は、博士後期課程の設置をめざした構想か.....	4
ウ	研究科、専攻等の名称及び学位の名称	5
エ	教育課程の編成の考え方及び特色	5
オ	教員組織の編成の考え方及び特色	9
カ	教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件	9
ク	施設・設備等の整備計画	11
ケ	既設学部との関係	12
コ	入学者選抜の概要	12
シ	現職職業人（社会人）大学院生に対する学修・研究上の配慮	14
チ	管理運営	14
ツ	自己点検・評価	15
ト	情報の公表	15
ナ	教員の資質の維持向上の方策	19

【添付資料】

- 資料① 「龍谷大学文学部臨床心理学科 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻
設置構想に係るニーズアセスメント調査」《抜粋》
- 資料② 「臨床心理学専攻 人材養成概念図」
- 資料③ 「履修モデル その1～その3」
- 資料④ 「既設学部との関係図」
- 資料⑤ 「職員定年規程」
- 資料⑥ 「特別任用教員規程」

ア 設置の趣旨及び必要性

1. 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻の設置の趣旨

龍谷大学は、寛永 16（1639）年に浄土真宗本願寺派の教育機関「学寮」として創立して以来、浄土真宗の精神（親鸞精神）を建学の理念とし、人間性豊かで深い学識と教養を備え、社会の発展向上に貢献する人材を養成することを目的において発展を遂げてきた。現在、文学部、経済学部、経営学部、法学部、理工学部、社会学部、国際文化学部、政策学部の 8 学部をはじめとして、それぞれに研究科を設置し、短期大学部及び法務研究科（法科大学院）を含めて、8 学部 1 短大 9 研究科 1 専門職大学院を擁する総合大学となっている。

今回新設する「文学研究科臨床心理学専攻」の設置母体である大学院文学研究科教育学専攻は、平成 6（1994）年 4 月に修士課程が、さらに平成 12（2000）年 4 月に博士後期課程が設置された。同専攻には「教育学領域」及び「教育心理学領域」の 2 つの領域を設け、それぞれの分野における高度な専門的能力を有した人材の養成に努めてきた。そして、平成 14（2002）年 4 月に、新たに修士課程に「臨床心理学領域」を設置し、臨床心理学分野における研究能力の向上と、専門性を要する臨床心理学領域の職能に必要な実践能力の養成を行っている。

教育学専攻臨床心理学領域では、医療・福祉学、教育学、宗教学の各分野における豊富な学外実習先を有するとともに、学内に大学院文学研究科付属「臨床心理相談室」を設置しており、大学院生に対して、充実した教育や実習機会の提供を行ってきた。こうしたことから、平成 15（2003）年 4 月に（財）日本臨床心理士資格認定協会の「二種指定校」に、そして平成 19（2007）年 4 月には「一種指定校」に指定されている。

同専攻では、実践的教育を継続して実施しており、20 ヶ所以上の外部実習機関において、大学院生に対して実習機会を提供している。加えて、臨床心理相談室における新規相談事例件数は、平成 17（2005）年 4 月以降、年間平均 100 件を上回り、延相談件数も年間 1,000 件を上回る実績を有し、各大学院生（修士課程）が 5～10 ケース以上を担当・分担できる体制を維持している。こうしたことを通して、実践的な志向性を有した高度専門的職業人としての臨床心理士を養成していることが、平成 17（2005）年と平成 22（2010）年に行われた（財）日本臨床心理士資格認定協会からの視察においても、高く評価されている。

こうした一連の積み重ねの中で、高度専門的職業人養成の使命に応え、新しい臨床心理学の研究領域を拓くために、文学部に新設する臨床心理学科を基礎とした「臨床心理学専攻」の設置を企図するに至った。

2. 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻の設置の必要性

（1）臨床心理学への社会の期待と要請

現代社会には多くの課題が存在しており、人々は精神的・心理的な安定を求めながらも、精神的・心理的な適応を維持・継続することが困難である。狭義の臨床心理学において、個人を対象としたカウンセリングなどの個別的支援は、これまでは学問的な中心テーマとして扱われてきた。しかし、現代社会においては、多彩な心理的課題への対応が急務とされている。

現代社会の課題に対して課題解決の筋道を示すことができる存在として、臨床心理学を基礎とした対人援助のスキルを有する高度専門的職業人への期待は強い。子どもたちの個別の発達・学習を支援するスクールカウンセラー、被虐待児の社会適応のための日常的支援を行う心理相談員、うつ病を中心とした可逆性のある精神疾患の患者の身体的・精神的リハビリテーシ

ョン時におけるカウンセリングを中心とした心理的ケア、高齢者介護の従事者への心理的支援、終末期医療における本人及び家族に対する心理的なケアなど、医療・福祉学、教育学、宗教学などの近接領域において、主要な専門家と協働して心理的な支援を担う専門家の必要性が提唱されはじめている。いわば、対人援助にかかわる高度専門的職業人の養成が求められている。

加えて、これまでは、被援助者個人への心理的対応は、臨床心理学領域における中心的課題に留まっていたが、昨今では、近接領域の専門家と協働し、チームとして取り組むことが必要となっている。しかし、これまでの臨床心理学においては、被援助者の個別性を重視するあまり、近接領域の専門家とともにチームとして取り組むことに対する、具体的な教育的指導が不足していたと考えられる。このことは、医療・福祉学、教育学、宗教学などの主要な心理学の近接領域においても、それぞれの援助に求められる高度な技能の修得を目的とした教育が重視されるあまり、対人援助の基礎であるコミュニケーション・スキルの修得が困難であったことと共通する。

また、学校教育現場においてもスクールカウンセラーの配置が求められ、現時点で義務教育である小中学校への全校配置が文部科学省から提唱されている。加えて、学校教育法の改正により平成 19（2007）年度から特別支援教育が導入され、発達障がいなどを有する者に対する支援も必要とされている。

このように、これまでの高度専門的職業人としての臨床心理士への要請だけでなく、様々な場面において心理的困窮にある人への援助に対する社会からの期待・要請は高まっている。

臨床心理学専攻は、これまでの臨床心理士養成に必要な臨床心理学に関する高度な技能の修得に留まらず、近接する対人援助に係る高度専門的職業人との協働的支援を担いうる人材の養成を基本として、研究と教育を展開することにより、こうした社会的な要請に応えるものである。

（２）龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻での人材養成の特色

臨床心理学専攻が養成する人材像は、人間の心理を対象とした高度な倫理性と実践能力を併せ持つ人材であり、これを具現化した職能資格が臨床心理士である。

臨床心理士は、「対人援助」について高度な職業的専門性を身につけた存在であり、現代社会の多様な心理的課題を学問的に把握し、解決することができる高度専門的職業人として位置づけられている。公的支援機関において個々の被援助者に対する心理的サービスを提供するだけでなく、医療・福祉学、教育学、宗教学などの近接領域の専門家との協働的支援を実践する場においても、臨床心理学的な側面からの支援を目的としたコンサルタントとしての役割を担うことが期待されている。そのため、高度な臨床心理学的知識と適切な臨床心理学的技能を有し、多様な近接領域の専門家との協働的支援を実践することのできる高度専門的職業人である臨床心理士の養成が求められている。

臨床心理学専攻は、こうした社会的要請を背景に、高度専門的職業人の養成に重点を置いた専攻として設置する。同専攻では、臨床心理学における最新の知識を提供するとともに、実践能力と倫理性の向上をめざし、次のような能力を有する高度専門的職業人を養成する。

①不適応や病理的問題を有する人の行動特性の理解と援助

不適応に陥っている人の行動特性を社会的な場面から深く理解し、人がストレスを感じる場面で生じる生理学的反応としての行動特性を受け入れたうえで、主体的に適切な援助を行うことができる。

②近接する援助実践での特性の理解

臨床心理学的知識にもとづく高度な判断ができるとともに、心理的課題により困窮している人に対して、対人援助を目的として機能している医療・福祉、教育、宗教などの近接領域の特性を理解した上で、課題解決のための効果的なコミュニケーション・スキルを発揮することができる。

③援助にかかわる主体性

学問的知識の修得に留まることなく、実践的な知識を活用した臨床心理学実践を主体的に行うとともに、臨床心理学にもとづいた高度な専門性を駆使して自らの行為を振り返り、問題探索と課題解決を主体的に構築することができる。

(3) 臨床心理学専攻において養成する人材像

臨床心理学専攻では、上記(2)①②③の到達目標の下に教育を展開することにより、次のような人材を養成していく。

修士課程

- ① 臨床心理士として、臨床心理学に関する高度な知識を活かし、心理的困窮にある人に対して効果的なコミュニケーション・スキルを用いて課題解決の指針を提供することができるとともに、臨床実践の現場における課題に関する研究を行える人材を養成する。
- ② 臨床心理学と近接する領域の高度専門的職業人との協働的援助に求められる臨床心理学に関する専門的知識や、協働による課題解決アプローチの構想に必要な対人援助の能力を修得させることで、「博士後期課程進学者」、「医療・福祉臨床で援助実践が行える人材」、「学校・特別支援臨床で協働的な臨床心理学的支援が行える人材」、「真宗寺院やビハール活動において臨床心理学の高度な知見を実践できる人材」、「高等学校の教員」等として活躍する人材を養成する。

博士後期課程

- ① 臨床心理学の現場における課題解決志向の実践的能力を涵養し、臨床心理学研究に従事する研究者及びより高度の専門的職業人としての臨床心理士として活躍する人材を養成する。
- ② 臨床心理学にかかわる対人援助の現場における課題を包括的に研究し、心理的困窮にある人に対して全人的な視点からの課題解決に資する優れた研究能力や協働的援助に必要な専門的能力を修得させることで、「研究者」、「スーパーバイザー（臨床心理士の教育者）」、「医療・福祉、教育、宗教の現場における高度専門的職業人」等として活躍する人材を養成する。

(4) 修了後の進路と人材需要

【資料①：「龍谷大学文学部臨床心理学科 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻 設置構想に係るニーズアセスメント調査」】《抜粋》

臨床心理学専攻修士課程修了後の進路としては、博士後期課程への進学、地方自治体の専門職員（心理）、医療・福祉関連施設での臨床心理士、NPO 法人などの民間団体での臨床心理士、スクールカウンセラー、高等学校の教員などが想定される。

また、臨床心理学専攻博士後期課程修了後の進路としては、大学や研究機関の研究者、地方自治体の専門職員（心理）、臨床心理士養成のためのスーパーバイザー等が想定され、研究者あるいはより高度の専門的職業人として活躍することが期待される。

第三者機関が平成 23（2011）年 1 月に福祉や教育、医療に関する団体、法人及び企業（以下、「団体・企業等」という。）に対し実施したアンケートの調査結果（有効回答数 84 件）では、臨床心理士を雇用している団体・企業等は 51 ヶ所（60.7%）であった。医療・保健、福祉（児童）分野を中心に、今後も臨床心理士の採用を予定しており、臨床心理学専攻が設置する 3 つの領域に適合している。

また、企業・団体等が求める能力について、学部卒業者に求める能力と大学院修了者に求める能力とを比較すると、その上位に大差は見られないものの、大学院修了生に対しては、「専攻学問の専門的な知識」や「取得している（見込みも含む）資格」をより重視する傾向であると言える。臨床心理学専攻では、臨床心理学に関する専門的な知識の修得と、臨床心理士の受験資格の取得をめざした教育課程を編成していることから、団体・企業等が求めるニーズに合致するといえる。

今回、【資料①の 3 章「龍谷大学文学部臨床心理学科および龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻の出口調査」】に示す第三者機関によるアンケートの調査結果においても、本学臨床心理学専攻修了生の採用に対しての前向きな回答が得られており、入学定員 10 名の修了後の進路は十分に確保できると考えている。

イ 修士課程までの構想か、又は、博士後期課程の設置をめざした構想か

臨床心理学専攻は、博士後期課程の設置をめざした構想である。

臨床心理学専攻の設置母体である文学研究科教育学専攻は、既に博士後期課程を設置（平成 12（2000）年 4 月設置）しており、より専門的で高度な研究を行う機会を提供している。

教育学専攻臨床心理学領域の修士課程に在籍している大学院生の中には、臨床心理学のより高度な研究を志し、同博士後期課程への進学を希望する者も少なくない。また、他の大学院修士課程修了後に、より専門的で高度な研究を希望して、本学の同博士後期課程への入学を希望する者もあり、それらの進学機会を保証することが必要と考える。

さらに、臨床心理士資格を取得して臨床現場で活躍している臨床心理士の中には、博士後期課程に進学し、より高度で専門的な臨床心理学の研究を希望する者や、より高度な実践能力の修得をめざす者もあり、これらに積極的に応えることが、これからの知識基盤型社会にとって必要であると考えられる。臨床心理学専攻では、現職職業人をより高度の専門的職業人として養成することも視野に入れており、研究者養成に限定することなく実践経験を有する臨床心理士についても積極的に受け入れることとする。

ウ 研究科、専攻等の名称及び学位の名称

臨床心理学専攻は、建学の精神にある共生の精神を持ちながら、近接する心理的支援の現場において協働的な臨床実践を実現するため、被支援者にかかわる人間関係を適切に把握し、高度な臨床心理学的専門性を発揮できる人材を養成することを設置の趣旨・目的とし、それらにもとづいて教育課程を編成している。また文学部臨床心理学科の教員組織を基礎として臨床心理学専攻の教員組織が編成されている。

したがって、専攻の名称は基礎となる学科（臨床心理学科）の名称を受けて、「臨床心理学専攻」とし、学位の名称は「修士（臨床心理学）」並びに「博士（臨床心理学）」とする。

英文は、臨床心理学を科学的に追究することを基本に置くという趣旨から「臨床心理学」を「Clinical Psychology」と表記する。

①専攻の名称

臨床心理学専攻修士課程 （英訳） Master's Degree Program in Clinical Psychology

臨床心理学専攻博士後期課程 （英訳） Doctoral Degree Program in Clinical Psychology

②学位の名称

修士（臨床心理学） （英訳） Master of Clinical Psychology

博士（臨床心理学） （英訳） Doctor of Clinical Psychology

エ 教育課程の編成の考え方及び特色

1.教育課程の編成の考え方

臨床心理学専攻には、人の心理を対象とした高度な倫理性と実践能力を有する「臨床心理士」の養成が求められている。臨床心理士は、「対人援助」について、高度な職業的専門性を有し、現代社会の多様な心理的課題を学問的に把握・解決することのできる高度専門的職業人である。また、臨床心理学研究に従事する研究者の養成も、本専攻の使命である。

臨床心理学専攻では、養成する人材像にふさわしい教育課程を編成するために、また学修成果として臨床実践の高度な能力と近接領域の専門職との協働的支援を実現できる能力の修得を保証するために、修士課程並びに博士後期課程の教育目標として次の3つを立てる。

修士課程

知 識： 人がストレス場面において生理学的反応として示す適応不全を、高度な臨床心理学的知識によって分析でき、心理的な側面だけでなく全人的な視点での臨床心理学的実践のための方策を構築しうる学問的知識を有することができる。

実践能力： 実践場面において高度な臨床心理学の知識を活用でき、心理的課題に困窮している人に対して、適切で効果的な課題解決に資する援助や支援に求められる高度なコミュニケーション・スキルを発揮できる。

力 量： 高度専門的職業人として、主体的に臨床心理学にもとづいた取り組みができ、心理的課題に困窮している人の課題を自ら設定し、その解決のために自らの行為を振り返るという高度な取り組みができる。

博士後期課程

- 知 識：** 人がストレス場面において生理学的反応として示す適応不全を、高度な臨床心理学的知識によって分析・考察でき、心理的な側面だけでなく全人的な視点での臨床心理学的実践のための方策を統合的に構築しうる、より高度な学問的知識を有することができる。
- 実践能力：** 実践場面において高度な臨床心理学の知識を活用するという自己認識を有し、心理的課題に困窮している人に対して、適切で効果的な課題解決に資する援助や支援に求められる方策を統合的に構築し、そのために必要な高度なコミュニケーション・スキルの向上に高い意欲を持つことができる。
- 力 量：** 研究者あるいはより高度の専門的職業人として、臨床心理学に課された課題や、心理的課題に困窮している人の課題解決に資するより高度な研究に、主導的に取り組むことができる。

2.教育課程の特色【資料②：「臨床心理学専攻 人材養成概念図」】

臨床心理学専攻の設置母体である教育学専攻臨床心理学領域の修士課程は、(財)臨床心理士資格認定協会から「一種指定校」として指定されている。臨床心理学専攻においても、この指定を継続するために、臨床心理士の受験資格取得に必要な科目を配置するとともに、資格取得に必要な単位と知識を修士課程において修得できる教育課程を編成する。

本専攻では、臨床心理学の高度な専門性を、個々の被援助者に提供できるだけでなく、医療・福祉学、教育学、宗教学などの近接領域の専門家との協働的支援を実践する場において、臨床心理学的支援を目的としたコンサルタントとして専門性が発揮できる高度専門的職業人の養成をめざす。そのため、多様な近接領域の専門家との協働的支援の現場を多数体験できるよう、大学院附属臨床心理相談室での実践だけに留まらず、履修指導等を通じて、外部機関における積極的な実習を推奨し、その経験をスーパービジョンによってより高度な臨床心理学的実践のあり方に接近させる。これによって、高度な臨床心理学的知識を有し、適切な臨床心理学的技能が発揮できる高度専門的職業人としての臨床心理士の養成が可能となる。

また、現代の多様な心理的事象が関与するとされている社会的問題に対しては、臨床心理学を基礎とした新たな対人援助方法の修得・発展を目的とした研究活動や、学問的により高度な社会実践を導き出すための研究者の養成が不可欠である。臨床心理学専攻の博士後期課程では、現代社会が要請している課題解決のための研究を促進するとともに、臨床心理学における対人援助の方法論や理念を発展させることを目的とした、臨床心理学におけるより高度な社会的有効性を展開することができる研究者の養成をめざす。これによって、臨床心理学に対する社会の期待に応え、社会の安全・安心の確保と発展に貢献できる人材を養成することを、臨床心理学専攻の使命とする。

(1) 各領域の設定

臨床心理学専攻では、学修目標の明確化、臨床実践を通したキャリア教育の実践、系統的な科目履修の促進を目的として、以下に示す 3 つの領域を設定する。それぞれの領域ごとに、関連分野の基礎的素養の涵養に配慮するとともに、高度専門的職業人にふさわしい職能資格の取得とアカデミックな学位を提供できる大学院教育を実現する。

①「医療・福祉臨床」領域

多彩な医療現場や社会的弱者に対する福祉的支援の現場における心理的援助の研究・実践に重点を置く領域である。医療や福祉現場での実習を行うとともに、スーパービジョンや研究指導を実施する。加えて、医療従事者や福祉施設の介護職員、保育士、指導員などの活動に関する援助技術のあり方についての実践と研究を展開する。

②「学校・特別支援臨床」領域

学校教育や保育の現場における対人援助の研究・実践に重点を置く領域である。学校教育の多彩な実態を把握するための現場実習を行うとともに、スーパービジョンや研究指導を実施する。加えて、教育現場の特別支援教育にかかわる発達支援や教育補助、児童生徒に対する福祉・心理的援助の活動についての実践と研究を展開する。

③「真宗・ビハーラ活動」領域

真宗寺院や関連仏教寺院における心理的援助や寺院関係者のビハーラ活動など、龍谷大学の建学の精神を重視した真宗カウンセリングやビハーラ活動の実践・研究に重点を置く領域である。寺院や関連施設での現場実習を行うとともに、スーパービジョンや研究指導を実施する。加えて、実践活動を通じて、寺院活動やビハーラ活動における心理的支援のあり方についての実践と研究を展開する。

(2) 教育プログラム

臨床心理学専攻では、時代の要請に応え、臨床心理学における最新の知識を提供するとともに、実践能力と倫理性の向上をめざす。高度な対人援助スキルを基盤とし、諸課題の解決に必要な臨床心理学的専門知識と倫理性を兼ね備えた、実践能力を有する高度専門的職業人や研究者を養成するため、次のような特色をもった教育プログラムを展開する。

①事例研究

修士課程及び博士後期課程の全学生と教員が参画する、事例についてのカンファレンスを実施する。これによって、臨床実践に必要な知識・経験を総合的に修得できる機会を保証する。また、修士課程の学生に対しては、それぞれがカンファレンスで取り上げた事例に関する事例研究論文の執筆を求めることとする。したがって、修士課程修了要件として、修士論文と事例研究論文のそれぞれの執筆を求める。

②臨床教育

修士課程の全学生に、大学院附属臨床心理相談室での臨床実践及び継続的なスーパービジョンの受講を積極的に促進していく。加えて、外部実習施設の指導者から指導を受ける機会を併用することで、修士課程修了までに臨床心理士としてのキャリア向上に資する臨床実践のための社会的ネットワークの構築を図る。

③実践的臨床演習の重視による高度専門的職業人としての倫理性の修得

学内での臨床実践と並行して、修士課程在学中から外部実習施設での臨床実践を経験させ、継続的なスーパービジョンを行う。現場経験に乏しい学生に、様々な外部実習を経験させる

ことで、臨床心理士としての職能に不可欠な職能的倫理性の修得を図る。

④学部教育との接続

大学院（臨床心理学専攻）と学部（臨床心理学科）との接続教育を進めるために、大学院生と学部生（希望者）が共に参加するカンファレンス等も予定している。大学院生には学部生への支援を経験することにより、学修コミュニティの形成能力を修得させ、専門的研究能力の向上を図るとともに、学部生には大学院生の考究する姿やその内容を間近で触れさせることにより、進学の動機を高める窓口としての機能を持たせる。

⑤臨床心理実践の拠点としての臨床心理相談室

臨床心理相談室は、実習施設として活用するだけでなく、修了生に対する修了後の高度専門的職業人としての教育機会を提供する拠点施設としての機能も有する。

また、臨床心理相談室の運営や臨床実践における実務の担い手として、非常勤カウンセラーを専任教員ごとに配置する予定である。このことにより、臨床心理相談室長や専任教員と非常勤カウンセラーが協働して、臨床心理実習の一層の充実を図ることができるとともに、現代的な臨床実践や研究に対応できる臨床心理士の養成に寄与できると考える。

⑥組織体としての教育力の向上

実践的な臨床技能を向上させ、課題解決に求められる力量を修得させるためには、個々の教員の教育力だけではなく、組織体としての教育力を高めることが必須である。そのために、臨床心理相談室を特色ある臨床心理実践の拠点として位置づけ大学院教育に反映させるとともに、教育力を高めるための大学院 FD（ファカルティ・ディベロップメント）活動を系統的に展開する。

⑦京都・宗教系大学院連合の履修を通じた単位互換制度

文学研究科では、本学を含む京都地区の宗教系大学の大学院で構成する「京都・宗教系大学院連合」の履修を通じて単位互換を実施する。「単位互換履修生」として受講し試験に合格することにより、臨床心理学専攻の修了要件単位（科目名：「臨床心理学特別研究」）として認定する。なお、履修要件については次のとおりである。

ア．認定の上限は 10 単位とする。

イ．前期の履修登録書類とともに配付する【「京都・宗教系大学院連合」単位互換履修出願票】に必要事項を記入する。

ウ．前期履修登録時に前期開講分・後期開講分を一度に登録する。後期での登録修正はできない。

エ．必修科目として履修を希望する場合は、【「京都・宗教系大学院連合」単位互換履修出願票】「受講認定」、「必修科目認定」欄に必ず指導教授の承認を得ることとし、指導教授との履修面談には、受講希望科目のシラバスを持参する。必修科目認定の可否については、文学研究科委員会にて審議し、結果は掲示にて発表する。

オ 教員組織の編成の考え方及び特色

臨床心理学専攻では、臨床心理学に関する専門知識を実践現場で活用できる知識に変換し、臨床実践を主体的に行える能力を有する高度専門的職業人と研究者を養成することを目標としている。そのために、前述の 3 領域を研究対象とするとともに、臨床実践に習熟し事例研究や学術研究についても重視している専任教員によって教員組織を編成している。

臨床心理学専攻の教員編成にあたって、修士課程の教育には専任教員 9 名があたる。その内訳は教授が 7 名、准教授が 1 名、講師が 1 名である。博士後期課程の教育には教授 5 名があたる。これらの専任教員はそれぞれの研究領域において十分な業績を有している。各領域の中核となる科目は専任教員によって担当されるよう人事を行った。理論と実践がともに能力として求められる臨床心理学専攻の特徴から、精神医療、児童福祉、特別支援教育等の分野で優れた能力を発揮した人材を採用し、臨床心理学専攻の実践重視の教育体制を支える教員編成とした。

なお、修士課程の教育にあたる専任教員は、設置母体である教育学専攻臨床心理学領域に所属する 4 名を含め、教育学専攻から 5 名を異動し、新規採用の 4 名を加えた合計 9 名とした。また、博士後期課程の教育にあたる専任教員は、同じく教育学専攻臨床心理学領域に所属する 2 名を異動し、新規採用の 3 名を加えた合計 5 名である。

教員組織の年齢構成は、40 歳代 3 名、50 歳代 5 名、60 歳代以上 1 名である。原則として、教授が教育にあたることとしている。このことで、教育研究水準の維持向上、及び教育研究の活性化に資する教員組織の構成となっている。また、大半の専任教員が児童精神医学、病院臨床、学校臨床、福祉臨床、特別支援臨床、及びビハーラ活動などの多様な現場経験を有しており、いずれも実務と理論をつなぐために必要な諸科目を担っている。

カ 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件

1. 教育方法、履修指導、研究指導の方法

臨床心理学専攻修士課程では、高度専門的職業人と研究者の養成に資する教育を進める。また、高度専門的職業人に必要とされる実践的な能力修得のためのサポートや早期段階からのキャリア指導の実践、臨床実践のための協働ネットワークの構築に資するため、「医療・福祉臨床」、「学校・特別支援臨床」、「真宗・ビハーラ活動」の 3 つの研究領域を設ける。修士課程の大学院生は、入学時に必ずいずれか 1 つの研究領域を選択する。この研究領域の選択と【資料③：「履修モデル その 1～その 3」】に示す履修モデルにより、専門的知識の修得を図る専攻領域科目、基礎的素養を涵養する関連領域科目の系統的な履修を促していく。

臨床心理士受験資格取得の要件であり、(財)日本臨床心理士資格認定協会「一種指定校」としての必修科目でもある「臨床心理学特論」「臨床心理面接特論」「臨床心理査定特論」「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習」を開講する。さらに、「一種指定校」において開設が必要な A～E 群の各科目群に対応すべく、それぞれ、次の科目を開講する。

A 群科目：「心理学研究法特論」、「臨床心理学研究法特論」、「心理統計法特論」、
「臨床心理学特殊研究」

B 群科目：「人格心理学特論」、「学習心理学特論」、「認知心理学特論」、「比較行動学特論」

C 群科目：「社会心理学特論」、「社会病理学特論」、「家族心理学特論」、「犯罪心理学特論」、「臨床心理関連行政論」、「人間関係学特論」

D 群科目：「精神医学特論」、「心身医学特論」、「神経生理学特論」、「老年心理学特論」、「障害者心理学特論」、「精神薬理学特論」

E 群科目：「投映法特論」、「心理療法特論」、「学校臨床心理学特論」、「グループアプローチ特論」、「臨床心理地域援助特論」

これらの開講科目は、各自が選択した研究領域に関わらず受講することが可能であるが、できる限り系統的な履修となるよう「臨床心理学演習Ⅰ」及び「臨床心理学演習Ⅱ」による履修指導を行う。

また、修士論文及び事例研究論文の執筆にあたっては、「臨床心理学演習Ⅰ」、「臨床心理学演習Ⅱ」において専攻領域に対応した指導教員が研究指導を行うとともに、中間報告会を開催し、教員団全体で論文チェックにあたる体制とする。

上述のような履修指導、研究指導及び厳正な単位認定によって、修士課程教育の実質化を実現する。

一方、博士後期課程では、「臨床心理学演習Ⅰ～Ⅲ」（必修科目）及び「臨床心理学特殊研究Ⅰ～Ⅲ」（選択科目）を開講する。

「臨床心理学演習Ⅰ～Ⅲ」は、専任教授 5 名が担当し研究指導を行うとともに、理論と臨床実践を架橋するような研究テーマを、大学院生自身が設定するように履修指導を行う。「臨床心理学特殊研究Ⅰ～Ⅲ」では、理論的な研究あるいは先行研究業績の整理など、博士論文の執筆に必要な専攻分野の研究を進めるとともに、学術論文の作成や後進に対する教育指導に関するテーマを設定させ、より実践的な臨床心理学の社会に向けた発信を促すための知識を修得させる。

臨床心理学専攻における博士後期課程の修了判定及び博士論文の審査は、厳格性と透明性にもとづいた一連の手続きによってなされる。文学研究科委員会で選出される 3 名の審査委員から成る審査委員会を構成し、課程修了の可否及び博士論文の可否の審査にあたる。審査委員会の厳正なる審査報告にもとづいて、文学研究科委員会において課程修了の可否及び博士論文の可否について議決する。その後、全学の大学院委員会においてさらに審査を行い、その議決において課程の修了及び博士論文の合格が認められた者に対して学位記が授与される。

博士論文については、論文タイトルと概要が龍谷大学月報で公表されるとともに、その全文は龍谷大学図書館において閲覧することができる。

2. 修了要件

修士課程

必修科目（「臨床心理学特論」4 単位、「臨床心理面接特論」4 単位、「臨床心理査定特論」4 単位、「臨床心理基礎実習」2 単位、「臨床心理実習」2 単位、「臨床心理学演習Ⅰ」4 単位、「臨床心理学演習Ⅱ」4 単位）24 単位を含む 32 単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、事例研究論文と修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。

博士後期課程

12 単位以上（博士論文指導である「臨床心理学演習Ⅰ」、「臨床心理学演習Ⅱ」及び「臨床心理学演習Ⅲ」の 12 単位修得を含む）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。

ク 施設・設備等の整備計画

1. 校地、運動場の整備計画

臨床心理学専攻を設置予定の大宮キャンパスは、現在 19,612.08 m²の校地面積を有し、1 学部 6 学科、2 研究科を設置している。教室・演習室や図書館、情報処理実習室、保健管理センター、こころの相談室、学生食堂等の施設のほか、福利厚生施設を含む各種施設について、既設専攻等と十分に共用可能である。

運動場については、京都市内に南大日グラウンド（スクールバスで約 30 分程度）を有するほか、深草キャンパス（スクールバスで約 15 分程度）内に体育館（メインフロアー、トレーニング室 9 室）及びテニスコートを設けている。

学生が休息や談話するスペースについては、キャンパス内の清和館 1 階食堂や 2 階の談話室、清風館の地階のラウンジや 2 階の談話室を備えている。また、西翼新棟の 1 階ロビーではオープンな談話スペースを設けている。

2. 校舎等施設の整備計画

臨床心理学専攻は、既設の文学研究科教育学専攻に所属する教員を中心として、文学研究科教育学専攻内に設置されている臨床心理学領域の教育プログラムにおけるこれまでの成果とその蓄積を基盤として設置する。そのため、校舎等の施設は、既存施設を有効に活用する予定である。

教室については、科目の配置状況やその授業形態を踏まえたうえで必要な教室を確保することとしており、現在、講義室 21 室、演習室 25 室、実験・実習室 10 室、情報処理実習室 5 室及びセルフラーニング室 1 室（パソコン 263 台設置）が整備されている。

これらの施設を既設専攻等と共同で利用する予定である。なお校地・校舎面積は、設置基準上、大宮キャンパスの現有施設で充足している。

3. 図書等の資料及び図書館の整備計画

龍谷大学は京都・滋賀地区に 3 つのキャンパスを有しており、キャンパス毎に図書館を設置し、各キャンパスの学部・研究科構成に応じた蔵書構成を取っている。これら深草図書館、大宮図書館、瀬田図書館の 3 館の所蔵資料数（深草図書館分室、社会科学研究所の資料を含む）は、平成 22（2010）年度末で約 1,940,000 冊である。

文学研究科臨床心理学専攻が開設される大宮キャンパスの大宮図書館は、文学部 3・4 年次生、大学院生及び研究者の学習・研究用として、人文科学系の基本図書の他に、専門図書・雑誌を重点的に収集している。従来から文学研究科教育学専攻において、「臨床心理学領域」、「教育心理学領域」の授業科目が開設されていたことから、臨床心理学に関する図書・資料を多数所蔵している。この他、国宝『類聚古集』・重要文化財『李柏尺牘稿』をはじめとする貴重書、特に真宗・仏教・文学等に関するコレクションを多数所蔵しているのが大きな特徴である。同館の蔵書数は、図書約 682,000 冊、雑誌約 5,300 種類、視聴覚資料約 5,300 点である。

大宮図書館は、事務室をはじめとする管理スペース、閲覧室、閲覧カウンター、貴重書庫、貴重書閲覧室、マイクロ資料室、視聴覚資料室、軽読書室等を有する地上 4 階（1 階は半地下、延床面積 5,403 m²）スペースと 7 層の積層書庫（延床面積 1,557 m²）から成っており、別棟となる西翼の地下書庫（1,282 m²）とは専用通路で繋がっている。閲覧席数は 311 席（視聴覚ブース、インターネット端末、CD-ROM 端末を含む）である。

上記の図書・雑誌等の紙媒体資料に加え、現在、47 種類のオンラインデータベース（電子ジャーナルを含む）などの電子媒体資料も一部を除き学内・学外から利用ができるよう整備しており、今後も積極的な導入を計画している。

大宮図書館の開館時間については、学生の自主学習時間確保のために、通常授業期間中の平日は 21 時 45 分、土曜日は 17 時まで開館している。日曜日は試験期間中のみ 17 時まで開館している。

また、相互協力については、学内 3 図書館間の相互貸借、文献複写サービスをはじめとして、他大学図書館との相互貸借・文献複写サービス、大学コンソーシアム京都共通閲覧システム、私立大学図書館協会西地区部会京都地区協議会共通閲覧証協定等へ参加など、他大学図書館等との協力も積極的に行っている。

ケ 既設学部との関係【資料④：「既設学部との関係図」】

臨床心理学専攻は、文学部臨床心理学科を基礎とする大学院教育課程として設置する。設置母体である文学部哲学科教育学専攻と文学研究科教育学専攻臨床心理学領域に所属する教員は、文学部臨床心理学科及び文学研究科臨床心理学専攻に異動して、それぞれの運営にあたる。

今般の改組に伴い、文学部においては、文学部哲学科教育学専攻における「教育臨床心理学コース」が「教育心理学コース」に改編され、「教育学コース」と併せた 2 コース制となる。また、文学研究科では、教育学専攻において「臨床心理学領域」を廃止（新設の臨床心理学専攻に移設）し、「教育学領域」と「教育心理学領域」の 2 領域体制となる。なお、臨床心理学専攻設置以降においても、教育学専攻や文学部間での科目提供など教学面で連携を図る予定である。

また、従来より、文学研究科教育学専攻（臨床心理学領域）修士課程への入学者は、文学部哲学科教育学専攻からの進学者に限らず、文学部の他学科・他専攻や社会学部などからの進学者も含まれている。したがって、臨床心理学専攻への入学者は、臨床心理学科からの進学者に加えて、文学部の他学科や社会学部等からの進学が見込まれる。

コ 入学者選抜の概要

1. 文学研究科のアドミッションポリシー

文学研究科では、建学の精神にもとづき、各専攻領域に関わる文献資料・史料に依拠し、確固たる基礎学力を養成する。

また、本学の豊富な蔵書や、専攻ごとに設置された合同研究室を研究拠点として独創的かつ精緻な研究を継承発展させ、自立して研究活動を行うのに必要な高度な研究能力、又は高度の専門性を要する職業等に必要な能力を培う。これらの学力と能力を基礎として、さらに進んで学術の振興と文化の発展に寄与することを目指す。

また、修士課程・博士後期課程ともに社会人入試を実施し、広く社会的要請にも応える。

修士課程

修士課程では広い視野に立って豊かな学識を身に付け、各専攻の学術の基本を修得した上で、さらに進んで各専攻分野における基礎的な研究能力を高め、加えて積極的な学術研究へ

の取り組みを通じて、より高度な専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とし、洞察力に富んだ人材を養成することを目指している。このような観点から、次のような人を求めている。

- ①専攻分野に関する基礎的な研究能力をもった人
- ②積極的な学術研究に取り組みたいと考えている人
- ③高度な専門性を活かした社会貢献を目指している人

博士後期課程

博士後期課程は、各専攻分野において、進取の気概をもって学術研究を推進し、研究者として自立した研究活動に従事することができ、加えて、より高度に専門的な学術業務に従事するのに必要な研究能力、及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目標とし、積極的に学術文化の向上と社会の発展に寄与する人材を養成する。このような観点から、次のような人を求めている。

- ①研究者として自立した研究能力をもった人
- ②高度な学術専門業務に従事しようと考えている人
- ③積極的に学術文化の向上と社会発展に寄与することを目指している人

2. 臨床心理学専攻の選抜方法

2-1 臨床心理学専攻修士課程の出願資格と合否判定

(1) 一般入学試験、社会人入学試験

一般入試及び社会人入試の募集定員は、合わせて 10 名とし、臨床心理学専攻の入学試験要項にもとづき、受験資格を認める者を対象に実施する。

一般入試と社会人入試は、いずれも筆答試験、出願書類、面接試験などを総合して合否を判定する。

(2) 外国人留学生入学試験

外国人留学生（正規留学生及び特別留学生）入試の募集定員は、若干名とし、龍谷大学外国人入学試験要項にもとづき、文学研究科が受験資格を認める者を対象に実施する。筆答試験・口述試験・出願書類などを総合して合否を判定する。

なお、龍谷大学では、外国人留学生の経済的困難を緩和するため、大学院研究科修士課程・博士後期課程に入学する私費外国人留学生の授業料の 40%を留学生学費援助奨学金として給付し、経済面から留学生の大学生活を支援している。

2-2 臨床心理学専攻博士後期課程の出願資格と合否判定

(1) 一般入学試験と社会人入試

博士後期課程一般入試と社会人入試の募集定員は合わせて 2 名とし、臨床心理学専攻の入学試験要項にもとづき、受験資格を認める者を対象に実施する。

一般入試と社会人入試は、修士論文またはそれに相当する研究論文を主とした口述試験を実施し、筆答試験、審査論文、口述試験、出願書類などを総合して合否を判定する。

(2) 外国人留学生入学試験

外国人留学生（正規留学生及び特別留学生）入試の募集定員は、若干名とし、龍谷大学外国人入学試験要項にもとづき、文学研究科が受験資格を認める者を対象に実施する。筆答試験・口述試験・出願書類などを総合して可否を判定する。

なお、龍谷大学では、外国人留学生の経済的困難を緩和するため、大学院研究科修士課程・博士後期課程に入学する私費外国人留学生の授業料の 40%を留学生学費援助奨学金として給付し、経済面から留学生の大学生活を支援している。

シ 現職職業人（社会人）大学院生に対する学修・研究上の配慮

臨床心理学専攻修士課程においては、現職職業人（社会人）が在職のまま入学することは認めない。一方、同博士後期課程においては、現職職業人が在職のまま入学することを認め、夜間の開講を一部実施し、学修・研究と就業とを両立できるようにする。

現職職業人（社会人）であることを活かすために、仕事の現場での課題を事例研究として学修できるように、履修指導並びに研究指導を行う。また、博士論文執筆年次にあたる現職職業人（社会人）大学院生については、博士論文指導を担当する教員が原則として同時に複数の現職職業人（社会人）大学院生を指導することがないように運用し、夜間においても履修や研究指導が支障なく実施できるような体制を構築する。

学費については、現職職業人（社会人）大学院生には単位制学費制度を導入するなど、長期間にわたる履修でも学費負担が過剰にならないように配慮する。

大宮図書館の開館時間については、現職職業人（社会人）大学院生の自主学習時間確保に配慮して、通常授業期間中には、平日は 21 時 45 分まで、土曜・日曜については 17 時まで開館している（日曜開館は、試験期間中のみ）。また大学院生自習室については、夜間、土日も開室し、現職職業人（社会人）の研究活動への配慮をしている。

チ 管理運営

文学研究科では、龍谷大学大学院学則第 47 条にもとづき、研究科委員会を設置する。

構成員については、文学研究科委員会内規において専任教員をもって組織することとし、また、委員会における審議・決定事項として①大学院の授業担当に関する事項、②授業及び研究指導に関する事項、③試験に関する事項、④入学・退学その他学生の身分に関する事項、⑤課程修了の認定に関する事項、⑥龍谷大学大学院学則第 17 条第 3 項に規定する学位の可否に関する事項、⑦研究科長の選出に関する事項、⑧その他研究科において必要な事項等の重要な事項を審議・決定することを規定している。

また、本委員会は研究科長が招集し議長となり、構成員の 3 分の 2 以上の出席をもって成立することとしており、月 2 回程度開催している。

ツ 自己点検・評価

龍谷大学では、建学の理念や目的、教育目標等を達成するために、教育研究活動等の諸活動について、継続して自己点検・評価を行うために、平成 15（2003）年 11 月に「大学評価に関する規程」を制定した。本規程にもとづき、大学執行部メンバーを中心に構成する全学大学評価会議、学長指名の 14 名で構成する大学評価委員会を設置し、全学的な自己点検・評価を実施している。平成 18（2006）年には、財団法人大学基準協会による相互評価並びに認証評価を受審し、平成 19（2007）年 4 月に大学評価の基準に適合しているとの認定を受けた。その際、助言として提言された事項については、計画的に改善に努め、長所として特記された事項は、一層の充実を図りながら、高等教育機関としての教育研究の質保証に取り組んでいる。本自己点検・評価結果は、龍谷大学自己点検・評価報告書としてまとめ、龍谷大学ホームページへ掲載するとともに、大学や関連機関等へ配布し、広く社会に公表している。

平成 20（2008）年 11 月には、さらなる自己点検・評価の実質化をめざして、大学評価に関する規程にもとづき、龍谷大学における新たな自己点検・評価制度の確立に向けた「基本方針」を策定し、自己点検・評価に取り組むこととした。その基本方針は次の 4 点である。①改善につながる確実な手法による自主的・継続的な自己点検・評価を行う。②大学基礎データを体系的・一元的に収集・整理する。③体系的な計画立案に資するためにデータの横断的利用を可能にする。④より明確で信任を得られる社会への説明を行う。

龍谷大学では、これらの基本方針にもとづき、平成 20（2008）年 11 月に「龍谷大学 自己点検・評価指標データベースシステム」を構築することを決定した。本データベースシステムの導入は、大学基礎データ等を系統的かつ一元的に蓄積・集約し、PDCA サイクルを回転させ、各部署が行う自己点検・評価の結果を改善・改革に結びつけることを目的としており、平成 23（2011）年度から同システムを本格稼働させている。

さらに、自己点検・評価の結果を改善・改革に結びつける仕組みとして、龍谷大学における内部質保証システムを構築し、平成 23（2011）年度から実施している。各学部・研究科及び各部署は、それぞれ自己点検・評価委員会等を設置し、上述のデータベースシステムを活用して年度毎に自己点検・評価を実施する。その自己点検・評価結果は、大学評価委員会においてピア・レビューを行い、当該学部・研究科及び各部署へフィードバックする。また、年度毎に取りまとめた自己点検・評価報告書は、毎年度ホームページ等を通じて公開し、社会に対する説明責任を果たすことにより社会から信頼される大学づくりをめざしている。

ト 情報の公表

龍谷大学では、在学生、保護者、卒業生、受験生等に向けて、大学の情報（大学の使命、目的、大学の運営状況、教育・研究活動等）を積極的に発信し、社会から魅力ある大学として評価を得るよう努めている。また、龍谷大学の諸活動に関する社会的責任や説明責任を果たし、公正かつ透明性の高い運営を実現し、構成員による自律的な運営及び教育研究の質の向上に資することを目的として、「学校法人龍谷大学情報公開規程」及び「情報公開規程に関する細則」を制定し、積極的な情報公開に努めている。公開内容は次のとおりである。

①大学の教育研究上の目的に関すること

- ・学部、学科、課程、研究科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的を掲載している。

HOME > 龍谷大学について > 情報公表 > 教育活動に関する情報

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_03.html

②教育研究上の基本組織に関すること

- ・教育研究組織図を掲載している。

HOME > 龍谷大学について > 組織 > 教育研究組織図

<http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/education.html>

- ・研究関連組織図を掲載している。

HOME > 龍谷大学について > 組織 > 研究関連組織図

<http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/research.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

- ・教員組織、各教員が有する学位及び業績

龍谷大学教員データベース who's who

<http://www.ryukoku.ac.jp/who/index.php>

- ・教員数を職階別・男女別と年齢別に分けて掲載

HOME > 龍谷大学について > 教員数（職階別・男女別数）2010年5月1日現在

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/faculty_1.html

HOME > 龍谷大学について > 教員数（年齢別数）2010年5月1日現在

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/faculty_2.html

④入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

- ・入学者に関する受入方針

HOME > 龍谷大学について > 情報公表 > 教育活動に関する情報

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_03.html

- ・入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数

HOME > 龍谷大学について > 龍谷大学基本情報（FACT BOOK）

<http://www.ryukoku.ac.jp/about/factbook.html#factbook02>

- ・進学者及び就職者数その他進学及び就職等の状況

HOME > 在学生の方へ > 就職関連統計資料 > 業種別就職状況

<http://career.ryukoku.ac.jp/zaigaku/gyousyu/index.html#str>

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

- ・シラバス

HOME > 学部・大学院・短大

<https://capella.ws.ryukoku.ac.jp/RSW/SYLD110Init.do>

- ・ 学年暦

HOME > 学生生活・就職支援 > 学年暦

http://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/calendar/index.html

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

- ・ 「教育理念・目的」と「教育課程編成・実施の方針」

HOME > 龍谷大学について > 情報公表 > 教育活動に関する情報

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_03.html

⑦校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

- ・ 深草キャンパス、大宮キャンパス、瀬田キャンパス、大阪梅田キャンパス、東京オフィス、RUBeC (Ryukoku University Berkeley Center)、アバンティ響都ホール等の特色や交通案内について説明。

就職活動を行う学生・卒業生・学外者の利用の多い大阪梅田キャンパス、東京オフィスについてはホームページを開設し、就職支援、生涯学習講座の案内・広報、就職支援、証明書発行等について掲載している。

HOME > 龍谷大学について > 情報公表 > 校地・校舎等の施設・設備に関する情報

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_08.html

- ・ 図書館、龍谷ミュージアム

図書館のホームページでは、深草・大宮・瀬田キャンパスの図書館の開館案内及び利用案内のほか、蔵書・資料検索等が行える。平成 23 (2011) 年 4 月開館の龍谷ミュージアムについても、ホームページを開設し、施設紹介及び利用案内のほか、特別展・企画展等について分かりやすく紹介している。

HOME > 図書館・龍谷ミュージアム

<http://www.ryukoku.ac.jp/library/index.html>

⑧授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

- ・ 授業料・入学金・施設費等の学費及び諸会費について掲載している。

HOME > 学生生活・就職支援 > 奨学金・学費について

http://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/expense/index.php

⑨大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

- ・ 奨学金、アルバイト紹介、相談窓口（ハラスメントに関する相談等）、資格取得支援、就職支援に関する情報を掲載している。保健管理センターのホームページでは、各種健康相談・診療に関する情報について掲載している。

HOME > 学生生活・就職支援 > 学生生活・就職支援

http://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/index.php

⑩その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果 等）

・学則等各種規程の公開

龍谷大学学則、龍谷大学大学院学則、龍谷大学専門職大学院学則、龍谷大学短期大学部学則、龍谷大学留学生別科規程、龍谷大学学位規程、龍谷大学短期大学部学位規程、ハラスメントの防止等に関する規程、「学生懲戒規程」制定の趣旨、学生懲戒規程、学費等納入規程、発明規程等を公開している。

HOME > 龍谷大学について > 諸規程

<http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/rules.html>

・設置認可申請書、設置届出書

設置認可申請書、設置届出書のうち「設置の趣旨等を記載した書類」「学則変更の趣旨等を記載した書類」を掲載している。

HOME > 龍谷大学について > 情報公開 > 設置認可申請書等について (PDF)

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/application.html

・設置計画履行状況報告書

対象となる「理工学研究科情報メディア学専攻及び環境ソリューション工学専攻（博士後期課程）」及び「実践真宗学研究科実践真宗学専攻（修士課程）」の設置計画履行状況報告書を掲載している。

HOME > 龍谷大学について > 情報公開 > 履行状況報告書について (PDF)

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/execution.html

・自己点検・評価報告書、認証評価の結果

龍谷大学が平成 18（2006）年度に行った自己点検評価内容、平成 18（2006）年度の大学基準協会による認証評価結果、平成 21（2009）年度の大学基準協会による法科大学院認証評価結果、平成 22（2010）年度の大学基準協会による短期大学認証評価結果を掲載している。

HOME > 龍谷大学について > 情報公開 > 自己点検・評価、認証評価結果

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/appraisal.html

さらに、文学部・文学研究科が行う講演会やセミナー等の多くの教育研究活動を、WEB を介して広く学内外に周知できるよう平成 21（2009）年 10 月に文学部ホームページをリニューアルし、受験生がこれまで以上に文学部・文学研究科での教育や研究活動に対して興味や関心を持つことができるよう対応している。

このほか、入学案内誌、本学の様々な取り組みや学生・教職員・卒業生の活躍を紹介するための広報誌「龍谷」（年 2 回発行）、学生スタッフによる学生の視点から龍谷大学の様々な取り組みや学生支援情報等を在学生に紹介する学生情報誌「XR（クロス*アール）」等も発行している。

ナ 教員の資質の維持向上の方策

大学院において人材養成機能の強化に取り組んでいくためには、組織的な FD の取り組みが必要不可欠であり、各研究科の課程の目的、教育内容・方法についての組織的な研究・研修（FD）の実施等、更なる機能強化が求められている。龍谷大学では、各学部・学部共通コース・教養教育等の各教育グループ及び個人の FD 活動を支援するとともに、個々の FD 活動の成果を集約し、全学に普及させることを目的として、平成 13（2001）年 4 月に大学教育開発センター（以下、「センター」という。）を設置した。

「大学教育開発センター設置規程」にもとづき、その運営に関する重要事項を審議・決定するために、大学教育開発センターの下に、各学部教務主任を中心としたセンター会議を設置するとともに、センターの通常業務を執行するためにセンター運営委員会を設けた。その運営委員会の下には、FD・教材等研究開発検討部会、教育活動評価支援部会、交流研修・教育活動研究開発機能部会を設置し、学内における FD 活動を積極的に推進してきた。

主な FD 事業は、以下のとおりである。

- ①FD・教材等研究開発事業として、大学がテーマを指定し FD 研究を行う指定研究プロジェクト（平成 16（2004）年度～）、教職員（兼任講師を含む）が個々にテーマを設定して取り組む自己応募研究プロジェクト（平成 10（1998）年度～）を募集・採択し、全学的な FD 活動の普及を図っている。
- ②教育活動評価支援事業として、平成 7（1995）年度より「授業アンケート」を実施してきた。現在は、「学生による授業アンケート」として毎学期末に実施し、各教育職員へ個別集計結果を配付し、授業改善のためのフィードバックを行っている。同アンケートの全体の集計結果については報告書として学内及び他大学に配付している。さらに龍谷大学の教職員・学生にはホームページを通じて全体集計を公開している。また、当該学期中に学生へのフィードバックが可能となるよう、平成 22（2010）年度から学期半ばに実施する授業アンケート（記述式）を試行的に実施している。
- ③交流研修・教育活動研究開発事業として、FD フォーラム（平成 17（2005）年度～）、ICT 支援セミナー（平成 14（2002）年度～）、公開授業・講評会（平成 16（2004）年度～）を開催している。また、大学教育開発センター通信・FD サロンレポート（平成 14（2002）年度～）・FD フォーラム報告書等を発行している。

平成 20（2008）年 11 月には、「大学教育開発センター設置規程」を一部改正し、各研究科に FD 委員会を設置し、各研究科 FD 委員会とセンターとが有機的に連携・協働し、大学院 FD を支援・推進していくための組織的な体制整備を行った。

平成 21（2009）年 1 月には龍谷大学における FD を「各教学責任主体が掲げる、建学の精神にもとづいた教育理念・目標を達成するための組織的・継続的な教育の質及び教育力の向上を目指すすべての取り組み」と定義し、FD 推進とその実質化を図っている。

続いて平成 21（2009）年 11 月に、「大学教育開発センター設置規程」の一部を改正し、大学院における組織的な人材養成機能強化のため、平成 22（2010）年度から現行のセンターに、組織的に大学院 FD を支援・推進していく機能を付加した。また、大学院 FD を支援・推進するため、既存の会議体（センター会議、センター運営委員会）の体制を継承しつつ、学部・大学院のそれぞれ主体的な FD に係る事業展開を実現しながら、相互補完的に FD に係る情報や事業を共有するため、学部・大学院 FD を統括し教学に資する事業を包括的に推進する会議体系として、大学院 FD を全学的に支援・推進していく大学院 FD 会議を設置することとした。

現在、センターでは、同センターが展開している主な 3 つの FD 事業（FD・教材等研究開発事業、教育活動評価支援事業、交流研修・教育活動研究開発事業）に準じて全学的な大学院 FD 活動を展開している。

また、平成 21（2009）年度には、大学院教育の機能強化・改善に向けた大学院政策を推進していくために大学院政策推進委員会を新たに設置した。併せて、それらを支援する体制として教学部大学院に大学院担当事務局を設置し、組織を整備した。

文学研究科独自の FD 事業として、文学部・文学研究科・実践真宗学研究科構成員からなる「文学部 FD 活動推進委員会」を設置し、教育のあり方についての協議及び授業等教育活動の改善を図っている。平成 22（2010）年度に文学部 FD 活動推進委員会の下に時限的に設置した「大学院ワーキング・グループ」は平成 23（2011）年度以降常設とし、文学研究科の授業改善に向けた取り組みを行うこととしている。

また、「文学部 FD 活動推進委員会」とは別に、教育活動に関する教職員相互の情報交換や認識を共有する場として「文学部 FD 研究会」を年 2 回開催している。

以 上

平成 23 年 3 月 10 日

龍谷大学文学部臨床心理学科
龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻
設置構想に係るニーズアセスメント調査

報 告 書

《 抜 粋 》

株式会社 紀伊國屋書店

目 次

1 章 龍谷大学文学部臨床心理学科の入口調査	
1. 調査の概要	・・・ P. 1
2. 龍谷大学文学部臨床心理学科	
設置構想に係るアンケート調査 質問項目・単純結果	・・・ P. 3
3. 各質問の分析	・・・ P. 8
4. 考察	・・・ P. 23
2 章 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻の入口調査	
1. 調査の概要	・・・ P. 24
2. 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻	
設置構想に係るアンケート調査 質問項目・単純結果	・・・ P. 25
3. 各設問の分析	・・・ P. 29
4. 考察	・・・ P. 36
3 章 龍谷大学文学部臨床心理学科および 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻の出口調査	
1. 調査の概要	・・・ P. 37
2. 龍谷大学文学部臨床心理学科および 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻	
設置構想に係るアンケート調査質問項目・単純結果	・・・ P. 38
3. 各設問の分析	・・・ P. 44
4. 考察	・・・ P. 57
外部資料	
① 心理系の大学一覧（近畿エリア）	・・・ P. 58
② 平成 22 年の大学進学率と現・高校 2 年生（2 府 4 県）	・・・ P. 59
③ 文学研究科教育学専攻	
（臨床心理学領域）志願・合格・入学	・・・ P. 60
④ 児童福祉施設の年次別常勤換算従事者数の推移	・・・ P. 61
⑤ スクールカウンセラーの設置校数と 不登校児童生徒数の推移	・・・ P. 62

2 章

龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻の入口調査

1. 調査の概要

○調査期間：平成 23 年 1 月 13 日（木）

○調査方法：大学の授業後、調査対象者にアンケート用紙を配布し、教職員の監督のもとで実施、回答を集計。

○調査対象：龍谷大学文学部哲学科教育学専攻の 3 年生

※設置を予定している平成 24 年に、受験する可能性が最も高い学年のため。

○調査内容：質問は 6 問で、主に選択肢式（一部記述での回答あり）。

■主な質問項目

『卒業後の進路について』

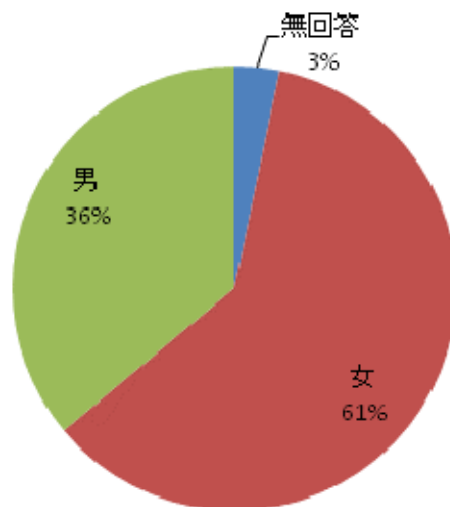
『龍谷大学大学院文学研究科臨床心理専攻（構想中）の印象に付いて』

『大学院の進学目的について』

○件 数：61 件

○基本データ【性別】

性別	人数	構成比
男性	22	37.3%
女性	37	62.7%
合計	59	100.0%



2. 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻 設置構想に係るアンケート調査 質問項目・単純結果

I. 卒業後の進路についてお聞きます

Q1. あなたは、大学を卒業後、どのような進路に進みたいと考えていますか。
次の中から最も希望する進路を一つ選択してください。

選択項目	人数	構成比
就職 (公務員、教員等を含む)	51	83.6%
大学院へ進学	6	9.8%
専門学校へ進学 (中央仏教学院、勤式指導所等を含む)	2	3.3%
寺院に奉職	0	0.0%
その他	2	3.3%
合計	61	100.0%

【Q1 で [2] を選択した方のみにお聞きます】

Q2. 修士課程修了後、博士後期課程への進学も考えていますか。

選択項目	人数	構成比
博士後期課程への進学も考えている	2	33.3%
博士後期課程への進学は考えていない	3	50.0%
未定	1	16.7%
合計	6	100.0%

II. 龍谷大学大学院で設置構想中の「文学研究科臨床心理学専攻」についてお聞きます

龍谷大学大学院では、2012（平成 24）年 4 月に、文学研究科臨床心理学専攻（修士課程及び博士後期課程）の新設を予定しています。

Q3. 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻（設置予定）には、次のような特徴があります。

あなたは、それぞれの特徴について、どの程度興味・関心を持ちましたか（以下の中から、最も当てはまるものを一つ選択して、番号を記入してください）。

1. 興味・関心を持った 2. やや興味・関心を持った 3. どちらとも言えない
4. あまり興味・関心を持たなかった 5. 興味・関心を持たなかった

	特 徴	回答欄
特徴①	【「臨床心理士受験資格」の一種指定校。修了後に「臨床心理」の受験資格を得ることができる。】 →万全の受験対応を行い、過去に高い成果を挙げている。 →受験対応に加え、臨床心理士としての実践能力向上のため、<u>就労後に継続的研修を実施。</u>	
特徴②	【臨床実践のための実践的な実習プログラムを重視】 <内部実習> 臨床心理相談室では、2005 年以降、延相談件数も 1000 回を上回る実績があり、<u>院生は修士課程の段階で 5～10 ケース以上に関われる体制を維持。</u> <外部実習> <u>医学・教育学・福祉学領域で 20 ヶ所以上の外部実習機関と連携。</u> 院生に多くの実習機会を与えることで実践的な志向性を持った臨床心理士を育成。	
特徴③	【高い就職実績・修士課程修了生の専任職員としての就業率は 50%以上を維持・】 →全国平均は 15%程度。特筆すべき成果。 →僧籍を持つ修士修了生が 6 名。臨床心理士資格を持ち、かつ僧侶の職務で活躍。	

【特徴①】

選択項目	人数	構成比
興味・関心を持った	34	55.7%
やや興味・関心を持った	15	24.6%
どちらとも言えない	7	11.5%
あまり興味・関心を持たなかった	3	4.9%
興味・関心を持たなかった	2	3.3%
合計	61	100.0%

【特徴②】

選択項目	人数	構成比
興味・関心を持った	27	44.3%
やや興味・関心を持った	21	34.4%
どちらとも言えない	7	11.5%
あまり興味・関心を持たなかった	3	4.9%
興味・関心を持たなかった	3	4.9%
合計	61	100.0%

【特徴③】

選択項目	人数	構成比
興味・関心を持った	30	49.2%
やや興味・関心を持った	19	31.1%
どちらとも言えない	5	8.2%
あまり興味・関心を持たなかった	4	6.6%
興味・関心を持たなかった	3	4.9%
合計	61	100.0%

Q4. 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻（設置予定）では、臨床心理士の受験資格を取得することができます。

あなたは、臨床心理士の受験資格取得について興味がありますか。

選択項目	人数	構成比
興味がある	27	44.3%
やや興味がある	16	26.2%
どちらとも言えない	4	6.6%
あまり興味はない	10	16.4%
興味はない	3	4.9%
無回答	1	1.6%
合計	61	100.0%

Q5. あなたは、龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻（設置予定）への進学を希望しますか。

選択項目	人数	構成比
ぜひとも進学したい	3	4.9%
前向きに考えたい	8	13.1%
どちらとも言えない	16	26.2%
進学を希望しない	32	52.5%
無回答	2	3.3%
合計	61	100.0%

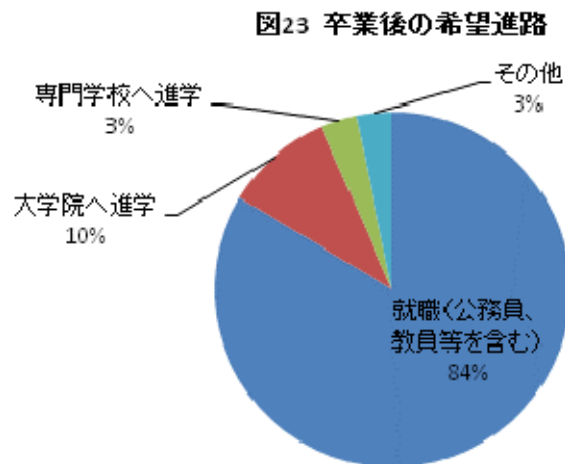
【Q5 で「1 または 2」を選択した方のみにお聞きします】

Q6. 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻（設置予定）への進学を希望される理由を教えてください（複数回答可）。

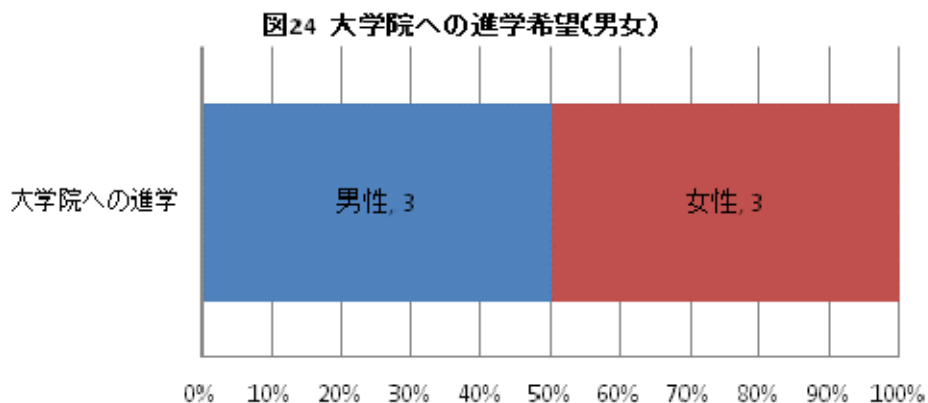
選択項目	人数	構成比
資格を取得したい	10	90.9%
就職に有利と思われる	5	45.5%
高度な研究を行いたい	4	36.4%
大学教員・研究者をめざしたい	3	27.3%
その他	0	0.0%
回答者数	11	

3. 各設問の分析

Q1. 大学卒業後の希望進路



龍谷大学文学部哲学科教育学専攻の3年生 61 人に、卒業後の希望進路について聞いたところ、6 人 (9.8%) が「大学院へ進学」と回答した。最も多い回答は「就職」で 51 人 (83.6%) であり、「専門学校」「その他」はともに 2 人 (3.3%) の回答があった。



大学院への進学希望者 6 人の男女構成は、上の図 24 の通り、男性・女性ともに 3 名であった。

ちなみに、「就職」希望と回答した男性は 22 名中、16 人 (72.7%)、女性は 37 人中、33 人 (89.2%) であった。

Q2. 博士後期課程までの進学を考えているか。(Q1 にて「大学院へ進学」を回答したもののみ)

大学院へ進学希望の 6 人のうち、2 人 (33.3%) が博士後期課程への進学を考えている。また、「考えていない」は 3 人 (50%) で、「未定」は 1 名 (16.7%) とそれぞれ回答した。

博士後期課程への進学を「考えている」と回答した 2 名はともに男性で、「考えていない」と回答した 3 名はすべて女性であったことから、男性の方が博士後期課程への進学を考えている結果となった。

Q3. それぞれの特徴について、どの程度興味・関心を持ったのか

【特徴①】

「興味・関心を持った」が 34 人 (55.7%)、「やや興味・関心を持った」が 15 人 (24.6%) と回答があった。特徴①に関しては、合計で 49 人 (80.3%) と、多くの学部生が興味・関心を持った。

図 25 にて男女別を見ると、「興味・関心を持った」に対しては男性が 10 人 (45.5%)、女性が 24 人 (64.9%)、「やや興味・関心を持った」では男性が 7 人 (31.8%)、女性が 7 名 (18.9%) とそれぞれ回答した。

女性の方が、興味・関心を持ったと回答した割合が多いが、男女ともに 80% 程の学部生が興味・関心を持ったことがわかった。

図25 特徴①

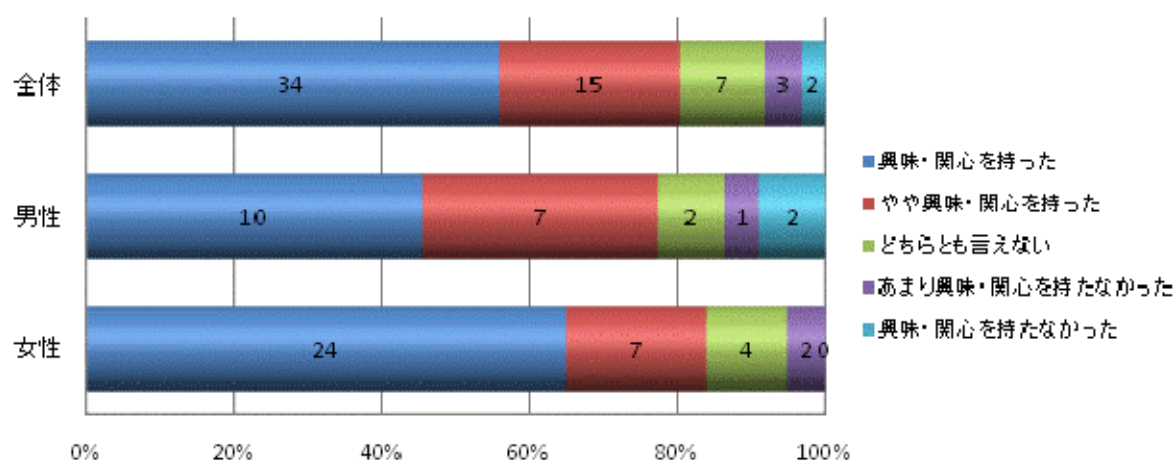
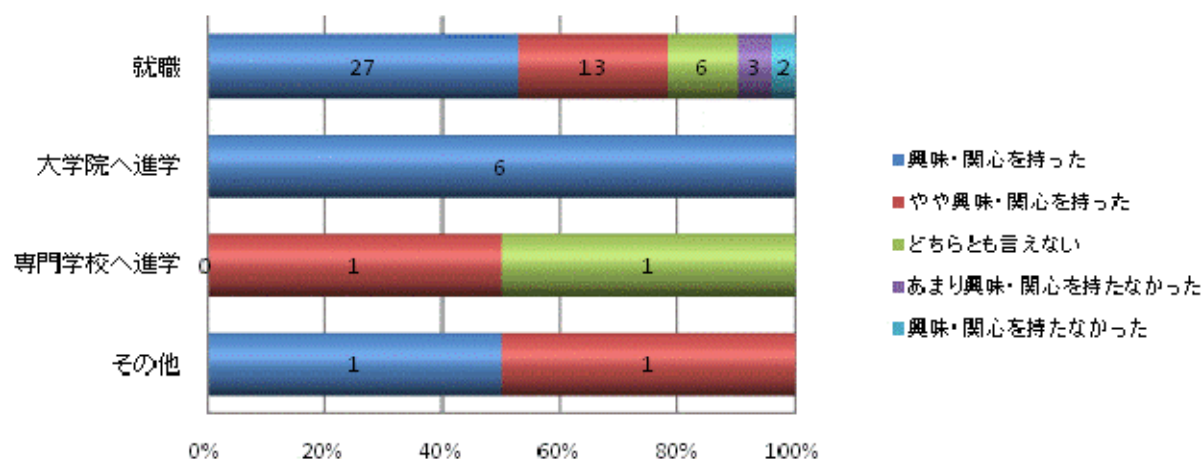


図 26 から希望進路別で見ると、就職希望の学部生 51 人中、「興味・関心を持った」を 27 人 (52.9%)、「やや興味・関心を持った」を 13 人 (25.5%) と回答し、合計 40 人 (78.4%) が興味・関心を持った。大学院への進学希望者 6 人は、全員「興味・関心を持った」と回答した。

図26 特徴①×希望進路



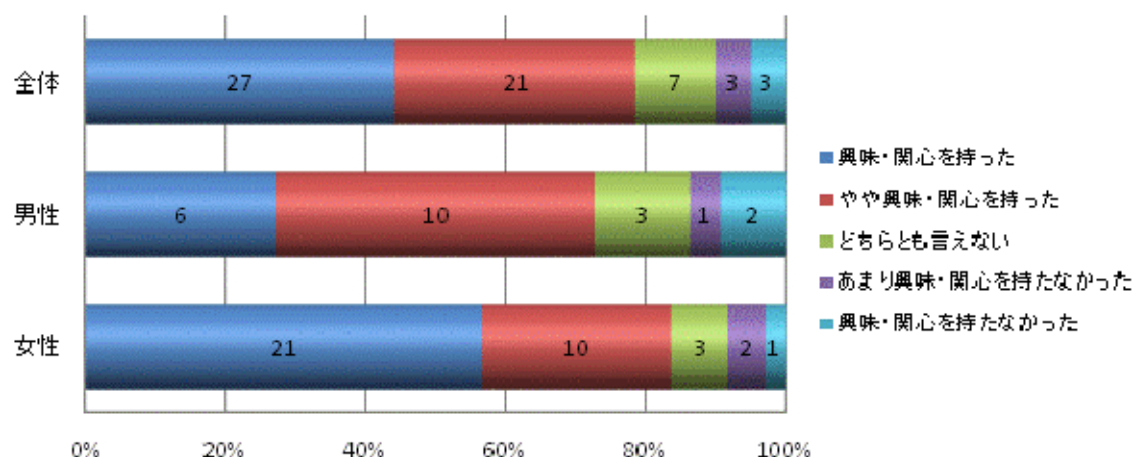
【特徴②】

「興味・関心を持った」が 27 人 (44.3%)、「やや興味・関心を持った」が 21 人 (34.4%) と回答があった。特徴②に対しては、合計で 48 人 (78.7%) と、特徴①と同様に、多くの学部生が興味・関心を持った。

下図 27 より、男女間で見ると、「興味・関心を持った」に対して男性が 6 人 (27.3%)、女性が 21 人 (56.8%)、「やや興味・関心を持った」では男性 10 人 (45.5%)、女性が 10 人 (27.0%) とそれぞれ回答した。

特徴①と同様に、女性からの興味・関心が 80%以上あり、男性も含め多くの学部生が龍谷大学大学院臨床心理学専攻に興味・関心を持ったことがわかった。

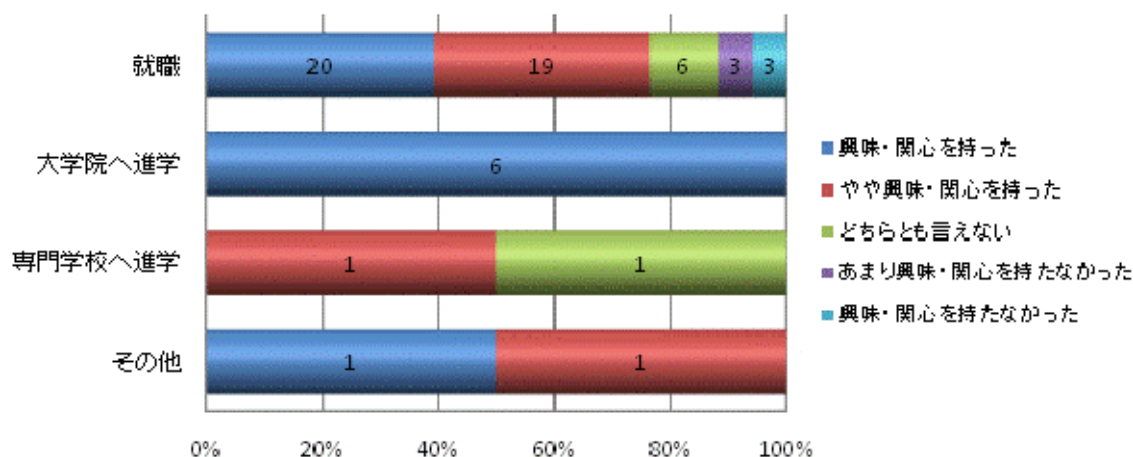
図27 特徴②



希望進学別で見ると、就職希望者の学部生 51 人中、「興味・関心を持った」を 20 人 (39.2%)、「やや興味・関心を持った」を 19 人 (37.3%) と回答し、合計 39 人 (76.5%) が興味・関心を持った。

大学院への進学希望者 6 人は、特徴①と同様に、全員が「興味・関心を持った」と回答した。

図28 特徴②×希望進路

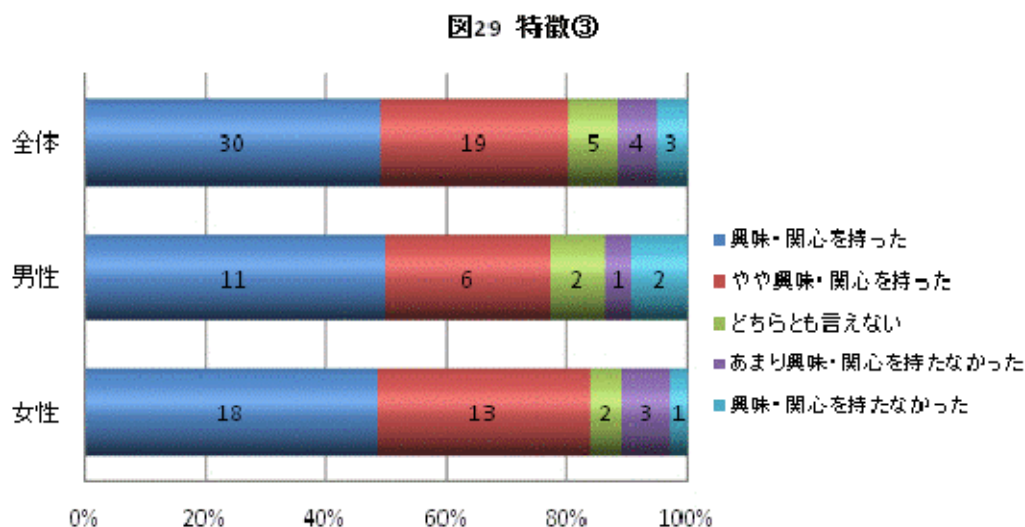


【特徴③】

「興味・関心を持った」が30人（49.2%）、「やや興味・関心を持った」が19人（31.1%）と回答があった。特徴③に対しては、合計で49人（80.3%）と、特徴①、②と同様に、多くの学部生が興味・関心を持った。

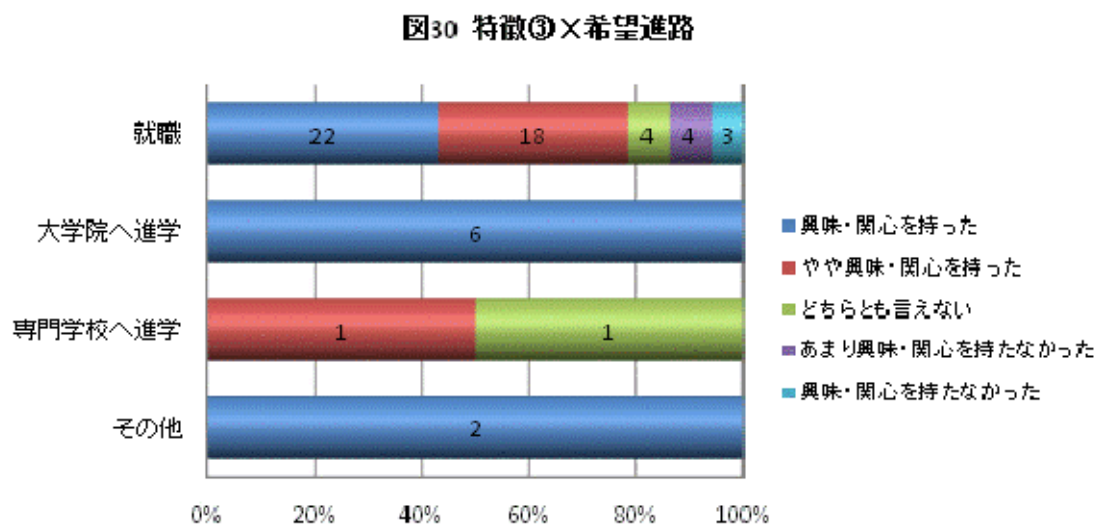
下図29より、男女間で見ると、「興味・関心を持った」に対して男性が11人（50.0%）、女性が18人（48.6%）、「やや興味・関心を持った」では男性6人（27.3%）、女性が13人（35.1%）とそれぞれ回答した。

特徴①、②と同様に、女性からの興味・関心が80%以上あった。また、3つの特徴のうち、特徴③が男性から「興味・関心を持った」との回答が最も多い結果となった。



希望進学別で見ると、就職希望者の学部生51人中、「興味・関心を持った」を22人（43.1%）、「やや興味・関心を持った」を18人（35.3%）と回答し、合計40人（78.4%）が興味・関心を持った。

大学院への進学希望者6人は、特徴①、②と同様、全員が「興味・関心を持った」と回答している。

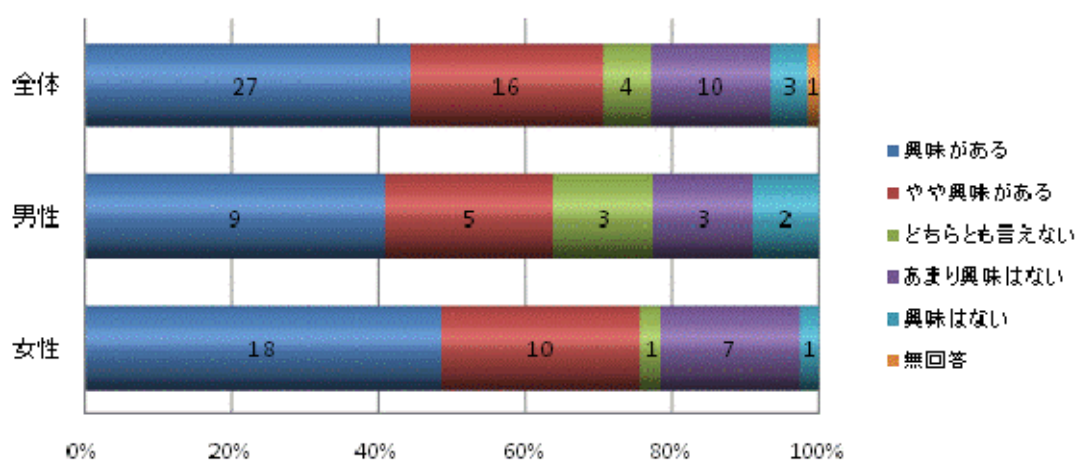


Q4. 臨床心理士の受験資格取得についての興味

臨床心理士の受験資格取得に 61 人中、27 人（44.3%）が「興味がある」と回答した。また、「やや興味がある」と回答した 16 人（26.2%）を含めると、43 人（70.5%）が臨床心理士の受験資格取得に興味を持っていることがわかった。

また、男女別で見ると、「興味を持った」に対して男性が 9 人（40.9%）、女性が 18 人（48.6%）と回答し、「やや興味がある」には男性 5 人（22.7%）、女性 10 人（27.0%）が回答し、若干であるが、臨床心理士の受験資格取得について、女性の方が興味を持つ割合が高かった。

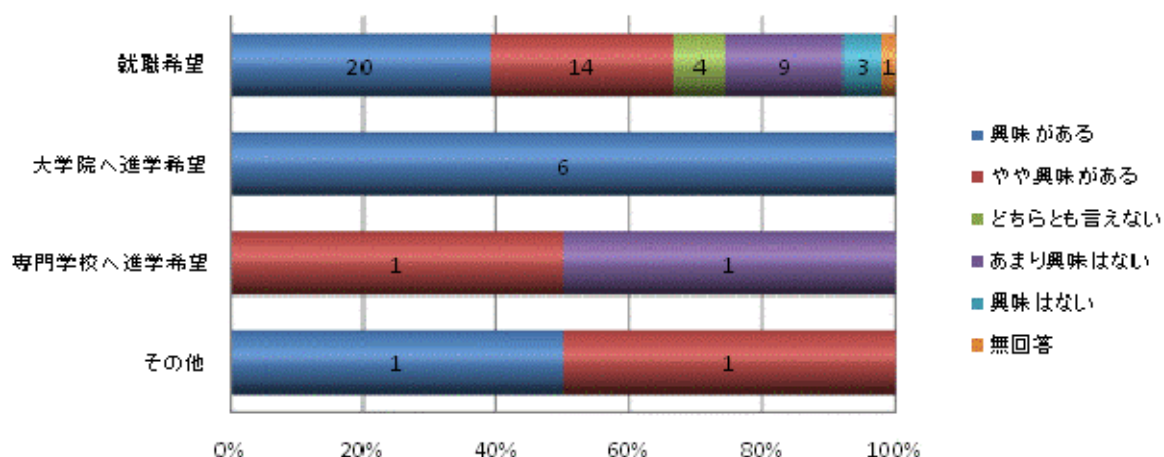
図31 臨床心理士の受験資格取得の興味度



下図 32 より、希望進路別で見ると、就職希望者の学部生 51 人中、臨床心理士の受験資格取得について「興味がある」を 20 人（39.2%）、「やや興味がある」を 14 人（27.5%）と回答し、合計 34 人（66.7%）が臨床心理士の受験資格取得に興味をもっていることがわかった。

また、大学院への進学希望者 6 人は、全員「興味がある」と回答した。

図32 臨床心理士の受験資格取得への興味×希望進路



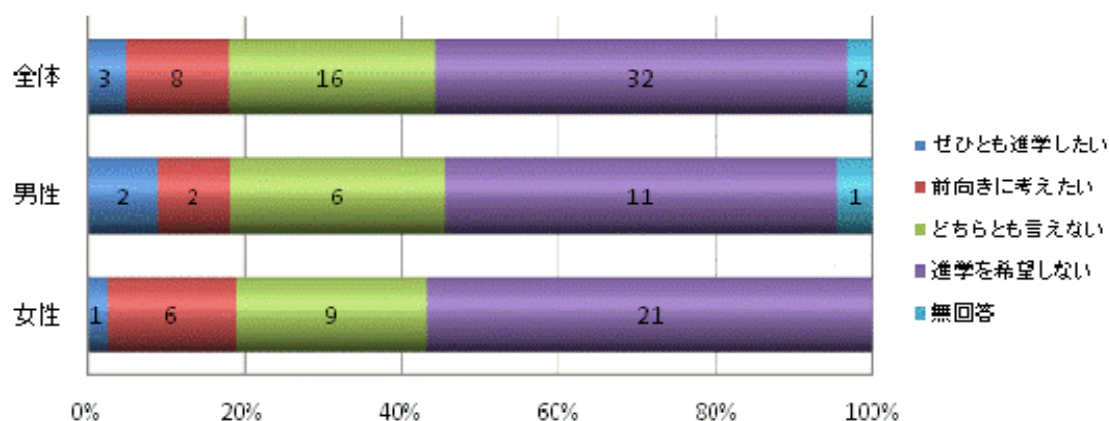
Q5. 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻への進学意欲

龍谷大学大学院文学研究科臨床心理専攻への進学意向に対して、「ぜひとも進学したい」3名（4.9%）、「前向きに考えたい」が8名（13.1%）、合計11名（18.0%）が進学に対して意欲を持っていると回答した。

また、男女間で見ると、「ぜひとも進学したい」と男性が2名（9.0%）、女性が1名（2.7%）回答し、「前向きに考えたい」と男性が2名（9.0%）、女性が6名（16.2%）とそれぞれ回答した。

男女ともに学部生の18%ほど進学を希望していることがわかる。

図33 進学意欲

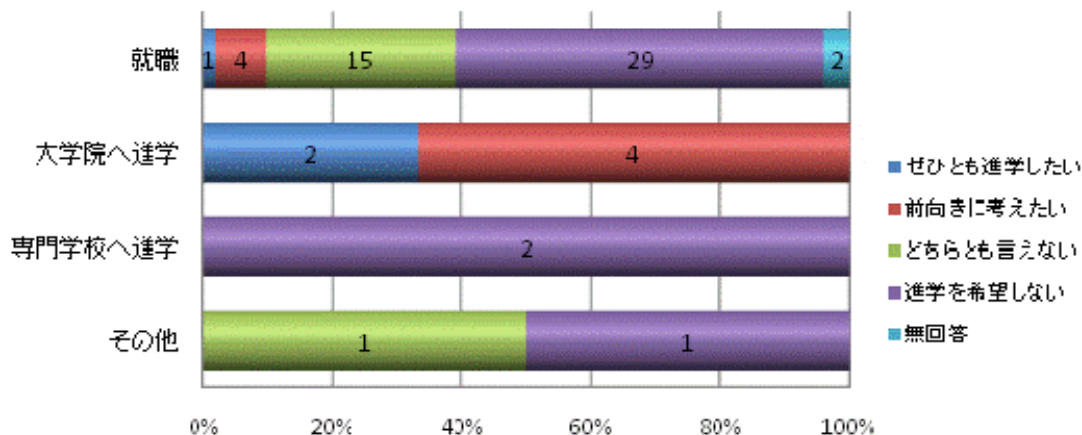


下図34から、就職を希望する学部生1名（2.0%）が龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻に「ぜひとも進学したい」と回答し、「前向きに考えたい」については4名（7.8%）が回答した。

また、大学院への進学希望者6名のうち、「ぜひとも進学したい」は2名（33.3%）、「前向きに考えたい」は4名（66.7%）と回答した。

大学院への進学希望者だけでなく、就職を希望する学部生からも龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻への進学を希望していることがわかる。

図34 進学意欲×希望進路



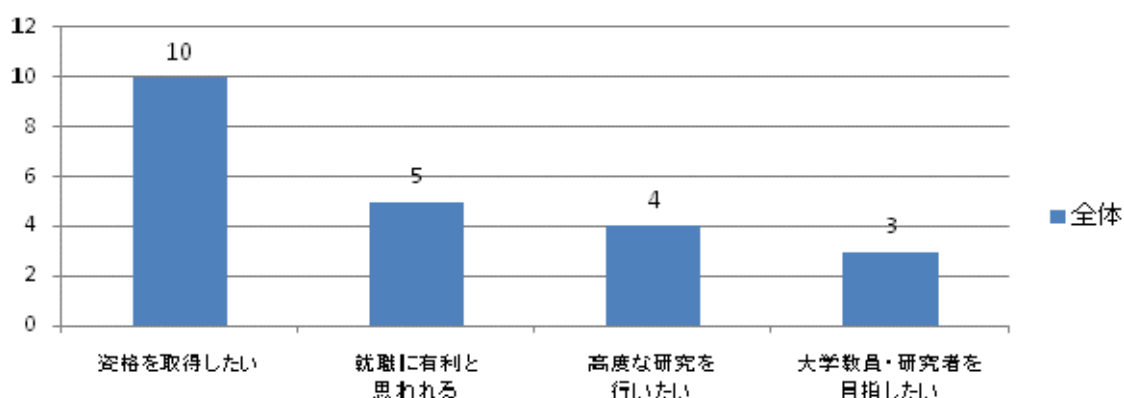
Q6. 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻へ進学を希望する理由

(Q5で「ぜひとも進学したい」「前向きに考えたい」と回答した方のみ)

龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻へ進学を希望する学部生 11 人に、進学を希望する理由を聞いたところ、「資格を取得したい」に 10 人（91%）が回答し、最も多い結果となった。

その他には、「就職に有利と思われる」5 人（45.5%）、「高度な研究を行いたい」4 人（36.4%）、「大学教員・研究者を目指したい」3 人（27.3%）とそれぞれ回答があった。

図35 進学を希望する理由



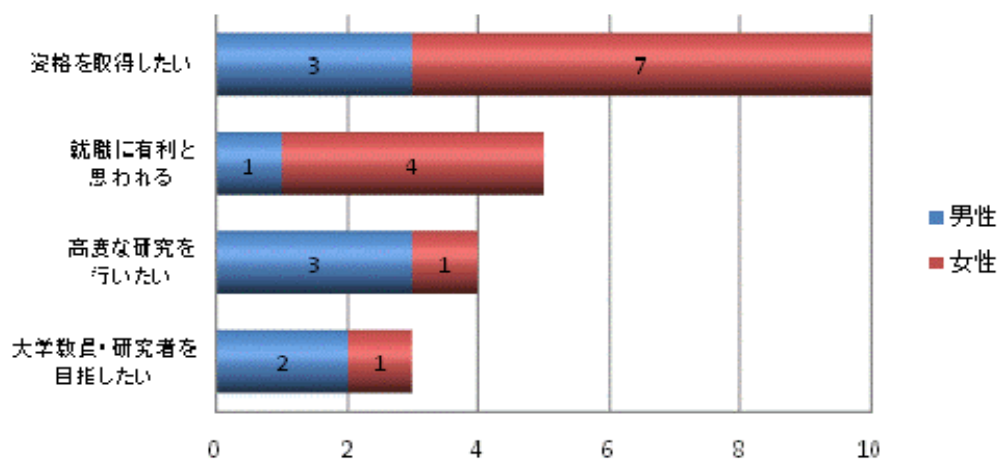
下図 36 は、進学理由を男女別で表したものである。

「資格を取得したい」と回答した 10 人のうち、男性は 3 人、女性は 7 人がそれぞれ回答した。また、「就職に有利と思われる」には、男性 1 人、女性 4 人と回答した。

「資格の取得」「就職に有利」の回答で、それぞれ女性の方が多かったことから、女性の進学理由として「就職」を意識したものであると判断できる。

一方、「高度な研究を行いたい」に男性 3 人、女性 1 人、「大学教員・研究者を目指したい」に男性 2 人、女性 1 人とそれぞれ回答した。この結果より、男性の進学理由は、「研究」を意識したものであると判断できる。

図36 進学理由×男女



4. 考察

(1) アンケートの回答より、龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻への興味度がわかる。

アンケート<Q3 特徴①>について、61人中、49人(80.3%)が「興味・関心を持った」と回答した。特徴①は「臨床心理士の受験資格を取得することができる」であるが、<Q4 臨床心理士の受験資格取得についての興味>の質問に対しても、43人(70.5%)が「興味がある」と回答している。

<Q3 特徴②>については、「実践的な実習プログラムを重視している」ことが特徴であるが、48人(78.7%)が「興味・関心を持った」と回答した。<Q3 特徴③>は「就職実績」であるが、49人(80.3%)が「興味・関心を持った」と回答している。

今回の調査対象者は、現在設置している龍谷大学大学院文学研究科教育学専攻臨床心理学領域への進学実績が高い、龍谷大学文学部哲学科教育学専攻に在籍する3年生である。設置予定である、龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻への進学意識が最も高いと考えられ、今回の3つの特徴に対しても「興味・関心がある」と多くの学生が回答している結果を得た。

(2) 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻に11人が進学したいと回答。

アンケート<Q5 進学希望>で、龍谷大学文学研究科臨床心理学専攻に「ぜひとも入学したい」が3人(4.9%)、「前向きに考えたい」が8人(13.1%)から回答があった。合計で11人(18.0%)の龍谷大学文学部哲学科教育学専攻に在籍する3年生が、龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻への進学に意欲を持っている。

龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻の入学定員は10人を予定しているが、龍谷大学文学部哲学科教育学専攻に在籍する61人を対象とした今回の調査だけでも、志願者確保の見通しを得た。また、龍谷大学文学部哲学科教育学専攻に在籍する3年生は全部で117人である。今回の調査はそのうちの61人、52.1%にあたる人数で実施された。そのため、龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻への進学希望者は、さらに増えることが予想される。

(3) アンケート対象外からの進学について

今回の調査の対象である、龍谷大学文学部哲学科教育学専攻の学生以外の学部・学科の龍谷大学生ならびに、他大学の学生からも進学の可能性がある。

現在、臨床心理士の受験資格が取得できる、龍谷大学大学院文学研究科教育学専攻臨床心理学領域への過去3年間の進学実績【外部資料③】を見ると、龍谷大学文学部哲学科教育学専攻以外の学生は、2008年、2009年にそれぞれ7人、2010年は0人であるが、3年間で平均5名の志願者がいる。また、他大学からの志願者は2008年に33人、2009年に37人、2010年に20人と、過去3年間で平均30名の志願者がいる。このことにより、上記の(2)の進学希望者に加えて平均35名の進学希望者が例年存在するため、入学定員の確保は確実であると言える。

以上、外部機関としての客観的な判断により、平成24年4月に設置を予定する龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻における学生募集の見通しに関して、全く問題ないと分析する。

3 章

龍谷大学文学部臨床心理学科および 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻の 出口調査

1. 調査の概要

○調査期間：平成 23 年 1 月 26 日（水）～2 月 28 日（月）

○調査方法：事前に要請していた調査対象者宛てにアンケート用紙を郵送し、返信のあった回答を集計。

○調査対象：福祉や教育、医療に関する団体法人または企業 194 社の採用担当者

○調査内容：質問は 9 問で、主に選択肢式（一部記述での回答あり）

■主な質問項目

『団体法人・企業の近年の採用実績について』

『団体法人・企業の今後の採用計画について』

『龍谷大学文学部臨床心理学科および

龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻への印象について』

○有効件数：84 件

○回 収 率：84 件／194 件 （43.4%）

2. 龍谷大学文学部臨床心理学科および大学院文学研究科臨床心理学専攻の
設置構想に係るアンケート調査 質問項目・単純集計結果

■貴法人・貴社の概要について

Q1. 事業分野について教えてください

選択項目	団体法人・企業数	構成比
教育	8	9.5%
医療・保健	17	20.2%
福祉(児童)	36	42.9%
福祉(高齢者)	1	1.2%
サービス	2	2.4%
その他	19	22.6%
無回答	1	1.2%
合計	84	

Q2. 従業員規模を教えてください。

選択項目	団体法人・企業数	構成比
1～10 名	18	21.4%
11～50 名	32	38.1%
51～100 名	9	10.7%
101～300 名	15	17.9%
301～500 名	1	1.2%
501～1000 名	5	6.0%
1001 名以上	3	3.6%
無回答	1	1.2%
合計	84	

Q3. 全従業員の内、臨床心理士としてご活躍されている方の規模を教えてください

選択項目	団体法人・企業数	構成比
0 名	31	36.9%
1～5 名	40	47.6%
6～10 名	9	10.7%
11～15 名	0	0.0%
16～20 名	0	0.0%
21 名以上	2	2.4%
無回答	2	2.4%
合計	84	

■採用について

Q4. 2011 年入社予定の大学（学部）・大学院の新卒の採用状況を教えてください。

【学部卒】

選択項目	団体法人・企業数	構成比
1～10 名	37	44.0%
11～30 名	5	6.0%
31～50 名	0	0.0%
51～100 名	0	0.0%
100 名以上	3	3.6%
採用していない	31	36.9%
無回答	8	9.5%
合計	84	

【大学院卒】

選択項目	団体法人・企業数	構成比
1～10 名	16	19.5%
11～30 名	3	3.6%
31～50 名	0	0.0%
51～100 名	0	0.0%
100 名以上	3	3.6%
採用していない	45	53.6%
無回答	17	20.2%
合計	84	

【臨床心理士の採用予定】

選択項目	団体法人・企業数	構成比
予定している	8	9.5%
予定していない	34	40.5%
無回答	42	50.0%
合計	84	100.0%

【臨床心理士の採用人数】

選択項目	団体法人・企業数	構成比
1 名	6	7.1%
2 名	1	1.2%
3 名以上	0	0.0%
無回答	77	91.7%
合計	84	100.0%

【臨床心理士の採用人数（常勤採用）】

選択項目	団体法人・企業数	構成比
1 名	4	4.8%
2 名	1	1.2%
3 名以上	0	0.0%
無回答	79	94.0%
合計	84	100.0%

Q5. 採用担当者として大学に求めるものは何ですか。

選択項目	団体法人・企業数	構成比
学生の基礎学力の向上	42	50.0%
仕事につながる実践的な授業	63	75.0%
専門的な学問・知識の教育	47	56.0%
学生のコミュニケーション能力の向上	63	75.0%
業界研究、仕事研究のサポート	11	13.1%
面接、適性テストの指導	5	6.0%
インターンシップ教育の充実	12	14.3%
産学連携のキャリア支援	4	4.8%
その他	12	14.3%
合計	84	

Q6. 今後の大学（学部）・大学院の新卒の採用計画を教えてください。

【学部卒】

選択項目	団体法人・企業数	構成比
採用枠を拡大する予定	3	3.6%
ほぼ現行並みの採用枠とする予定	28	33.3%
採用枠を縮小する予定	1	1.2%
しばらく採用は考えていない	19	22.6%
優秀な学生がいた場合のみ採用する予定	6	7.1%
未定	22	26.2%
無回答	5	6.0%
合計	84	100.0%

【大学院卒】

選択項目	団体法人・企業数	構成比
採用枠を拡大する予定	3	3.6%
ほぼ現行並みの採用枠とする予定	21	25.0%
採用枠を縮小する予定	1	1.2%
しばらく採用は考えていない	22	26.2%
優秀な学生がいた場合のみ採用する予定	8	9.5%
未定	24	28.6%
無回答	5	6.0%
合計	84	100.0%

Q7. 貴法人・貴社が新卒生に求める能力は何ですか。(複数選択可)

【学部生】

選択項目	団体法人・企業数	構成比
コミュニケーション能力	70	83.3%
基礎的な学力	44	52.4%
専攻学問の専門的な知識	36	42.9%
社会常識	73	86.9%
前に踏み出す力	37	44.0%
考え抜く力	35	41.7%
チームで働く力	64	76.2%
適応力	56	66.7%
目標達成指向	30	35.7%
理解力	40	47.6%
忍耐力	39	46.4%
インターン・ボランティアでの経験が豊富	17	20.2%
取得している(見込みも含む)資格	16	19.0%
その他	3	3.6%
合計	84	

【大学院卒】

選択項目	団体法人・企業数	構成比
コミュニケーション能力	68	81.0%
基礎的な学力	37	44.0%
専攻学問の専門的な知識	58	69.0%
社会常識	69	82.1%
前に踏み出す力	30	35.7%
考え抜く力	37	44.0%
チームで働く力	63	75.0%
適応力	53	63.1%
目標達成指向	33	39.3%
理解力	40	47.6%
忍耐力	37	44.0%
インターン・ボランティアでの経験が豊富	20	23.8%
取得している(見込みも含む)資格	26	31.0%
その他	3	3.6%
合計	84	

Q8. 龍谷大学文学部臨床心理学科（設置構想中）の卒業生を採用する可能性はありますか。

選択項目	団体法人・企業数	構成比
採用する可能性は大いにある	11	13.1%
状況に応じて採用を考える	32	38.1%
どちらとも言えない	27	32.1%
採用しない	12	14.3%
無回答	2	2.4%
合計	84	100.0%

Q9. 龍谷大学大学院「文学研究科臨床心理学専攻」（設置構想中）修了生を採用する可能性はありますか。

【総合職としての採用】

選択項目	団体法人・企業数	構成比
採用する可能性は大いにある	10	11.9%
状況に応じて採用を考える	35	41.7%
どちらとも言えない	18	21.4%
採用しない	17	20.2%
無回答	4	4.8%
合計	84	100.0%

【臨床心理士（常勤）としての採用】

選択項目	団体法人・企業数	構成比
採用する可能性は大いにある	6	7.1%
状況に応じて採用を考える	31	36.9%
どちらとも言えない	25	29.8%
採用しない	20	23.8%
無回答	2	2.4%
合計	84	100.0%

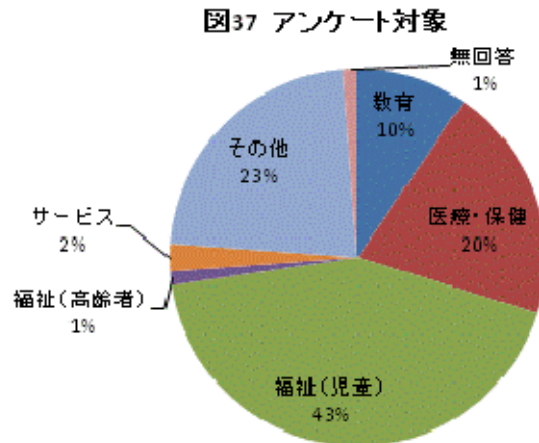
【臨床心理士（非常勤）としての採用】

選択項目	団体法人・企業数	構成比
採用する可能性は大いにある	8	9.5%
状況に応じて採用を考える	32	38.1%
どちらとも言えない	21	25.0%
採用しない	18	21.4%
無回答	5	6.0%
合計	84	100.0%

3. 各質問の分析

Q1. 事業分野について

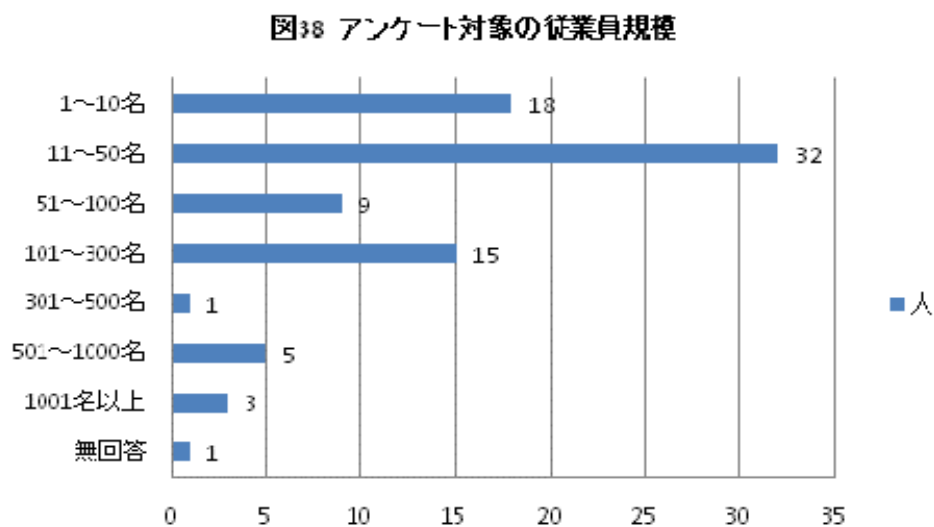
本アンケートに回答した事業分野は以下の図 37 の通りである。



Q2. 従業員規模について

従業員の規模で、その企業・法人の規模がわかる。アンケート対象の従業員規模を聞いたところ、「11～50 名」に対して 32 企業・法人（以下、カ所）が回答し、最も多い結果であった。次いで「1～10 名」が 18 カ所、「101～300 名」が 15 カ所と回答があり、

比較的、中小規模な企業・法人が多かったが、「1001 名以上」も 1 カ所から回答があり、様々な規模の企業・法人からデータであることが言える。

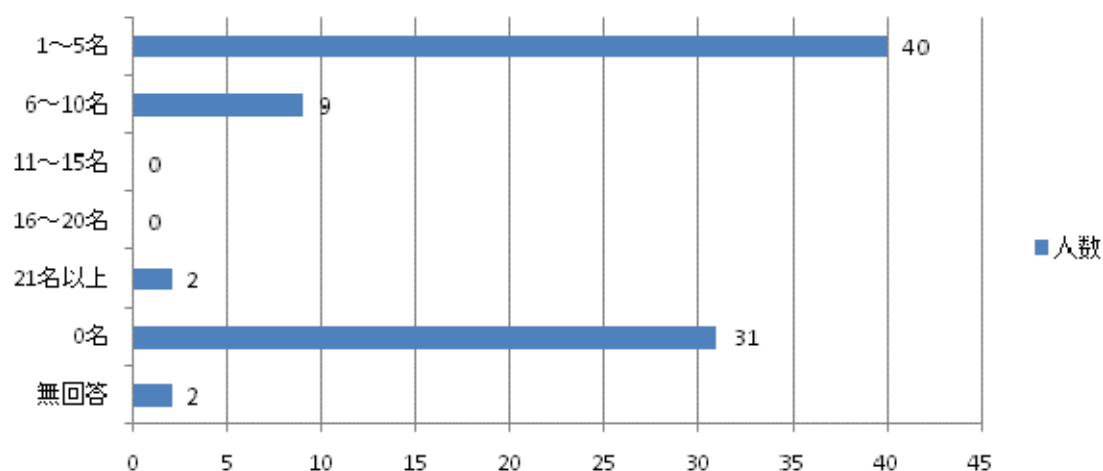


Q3. 臨床心理士の規模について

84 企業・法人に、臨床心理士としての従業員数を聞いたところ、「1～5 名」と 40 カ所（47.6%）が回答した。「6～10 名」に 9 カ所（10.7%）、「21 人以上」に 2 カ所（2.4%）と回答があった。

一方、「0 名」に 31 カ所（36.9%）から回答があり、アンケートを回答した企業・法人の中で臨床心理士がいる企業・法人は 51 カ所（60.7%）となっている。

図39 臨床心理士の従業員数

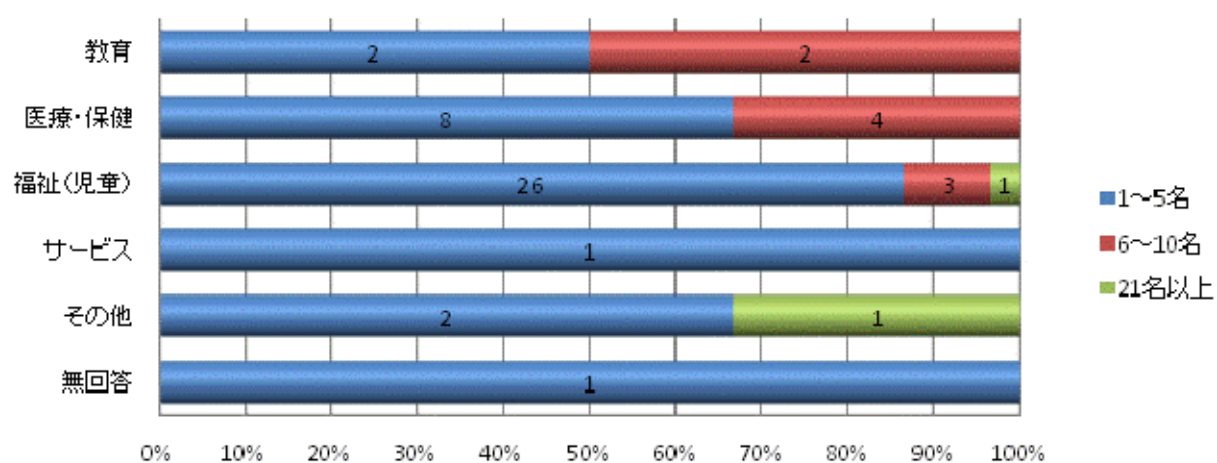


下図 40 より、各事業分野における臨床心理士の規模がわかる。

福祉（児童）36 カ所のうち、26 カ所（72.2%）で「1～5 名」、3 カ所（8.3%）で「6～10 名」、1 カ所（2.7%）で、「21 名以上」それぞれ臨床心理士が活躍していると回答した。福祉（児童）では合計 30 カ所（83.3%）と非常に高い割合で臨床心理士が働いている。

その他では医療・保健も 17 カ所のうち、合計 12 カ所（66.7%）、教育 8 カ所のうち、4 カ所（50.0%）が働いていることがわかる。

図40 臨床心理士の規模×事業分野



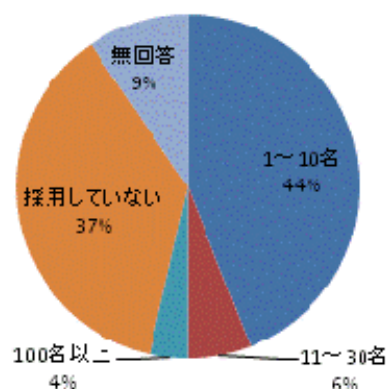
Q4. 2011 年に入社予定の採用状況

【学部卒】

企業・法人に 2011 年入社予定の新卒（学部生）を聞いたところ、84 カ所中、37 カ所（44.0%）が「1～10 名」の採用予定であると回答した。また、「11～30 名」が 5 カ所（6.0%）、「100 名以上」が 3 カ所（3.6%）とそれぞれ回答し、少人数の採用が目立つ結果となった。

また、「採用していない」を 31 カ所（36.9%）が回答している。

図41 2011年の採用予定(学部卒)

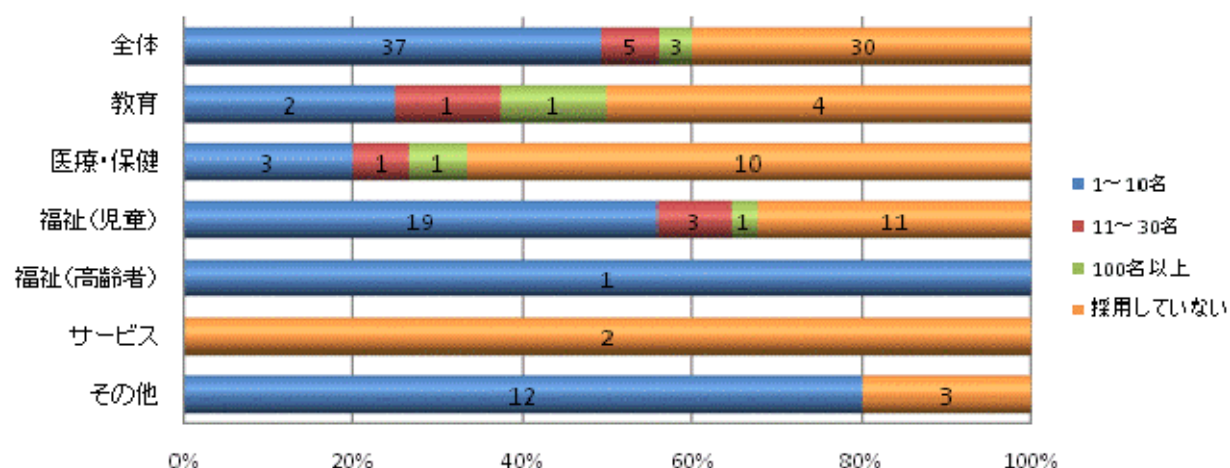


下図 42 は、各事業分野における学部卒の採用状況をグラフに表したものである。

教育分野での採用予定は、8 カ所のうち「1～10 名」が 2 カ所（25.0%）、「11～30 名」が 1 カ所（12.5%）、「100 名以上」が 1 カ所（12.5%）、「採用していない」が 4 カ所（50.0%）とそれぞれ回答した。

福祉（児童）では、「1～10 名」が 19 カ所（52.8%）、「11～30 名」が 3 カ所（8.3%）、「100 名以上」が 1 カ所（2.8%）、「採用しない」が 11 カ所（30.1%）と、それぞれ回答した。福祉（児童）分野での企業・法人では、積極的に新卒採用を行っていることがわかる。

図42 事業分野別の採用状況(学部卒)

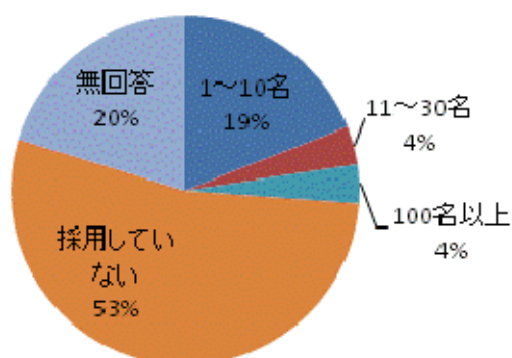


【大学院卒】

2011 年入社予定の新卒（大学院卒）を企業・法人に聞いたところ、84 カ所中、16 カ所（19.0%）が「1～10 名」の採用を予定していると回答した。また、「11～30 名」が 3 カ所（3.6%）、「100 名以上」が 3 カ所（3.6%）とそれぞれ回答した。

また、「採用しない」が 45 カ所（53.6%）と回答しており、2011 年に関しては学部卒生に比べ、大学院卒生の採用が少ないことがわかる。

図43 2011年の採用状況(大学院卒)

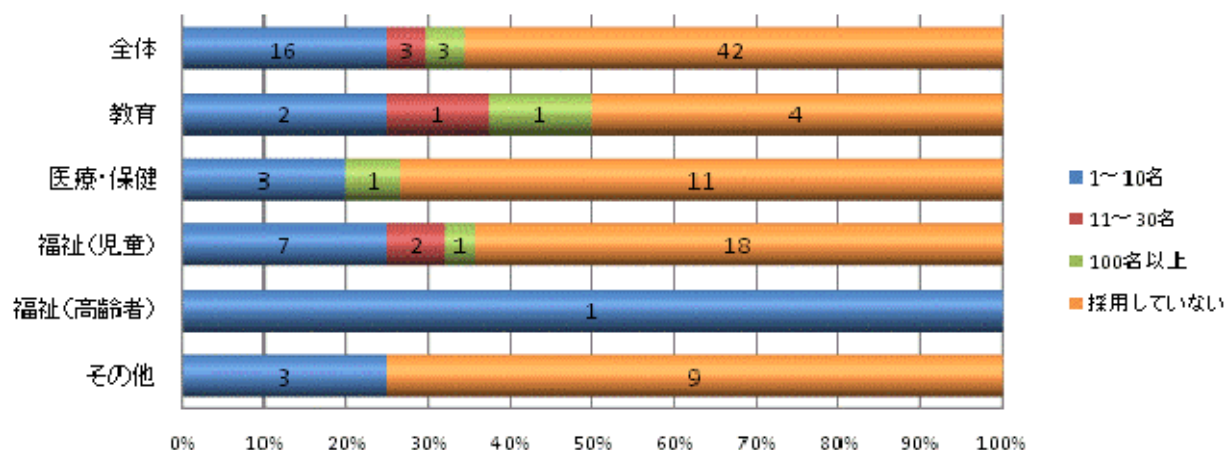


下図 44 より、各分野における大学院卒の採用状況をグラフに表したものである。

教育分野での採用予定は、8 カ所のうち「1～10 名」が 2 カ所（25.0%）、「11～30 名」が 1 カ所（12.5%）、「100 名以上」が 1 カ所（12.5%）、「採用していない」が 4 カ所（50.0%）とそれぞれ回答し、学部卒と同じ回答数であった。

福祉（児童）では、「1～10 名」が 7 カ所（19.4%）、「11～30 名」が 2 カ所（5.6%）、「100 名以上」が 1 カ所（2.8%）、「採用しない」が 18 カ所（50.0%）と、それぞれ回答した。

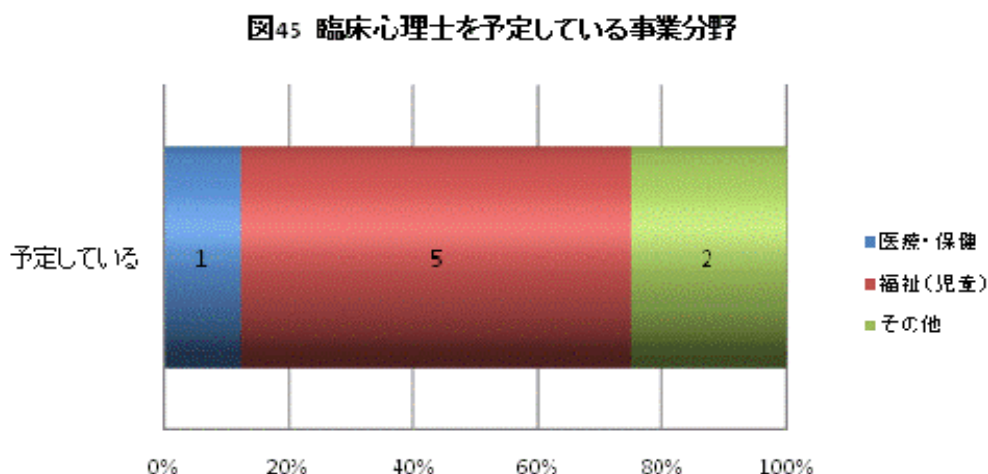
図44 事業分野別の採用状況(大学院卒)



【臨床心理士の採用について】

企業・法人 84 カ所に 2011 年入社予定のうち、臨床心理士としての採用を予定しているかどうかを聞いたところ、「予定している」が 8 カ所（9.5%）、「予定していない」が 34 カ所（40.5%）とそれぞれ回答し、無回答が 42 カ所（50.0%）であった。

「予定している」と回答した 8 カ所の内訳は図 45 の通り、医療・保健が 1 カ所、福祉（児童）が 5 カ所、その他の事業分野は 2 カ所となっている。

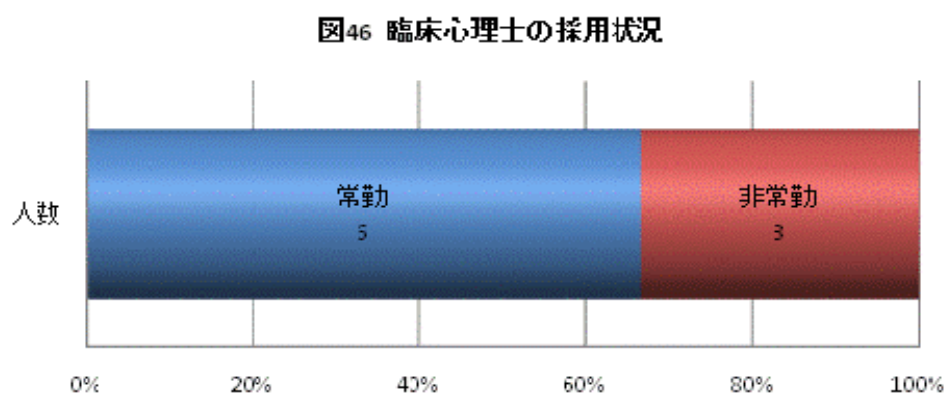


また、「予定している」と回答した 8 カ所に採用人数を聞いたところ、「1 名」と回答したのが 6 カ所で、「2 名」と回答したのが 1 カ所、1 カ所は無回答であった。本アンケートの対象 84 カ所において、臨床心理士として採用された新卒生は最低でも 9 人である。

臨床心理士の採用を「予定している」と回答した 8 カ所に、常勤としての採用なのかどうかを聞いたところ、「1 名」が 4 カ所、「2 名」が 1 カ所と回答し、合計で 6 名が常勤としての採用であった。

上記にて、最低でも 9 人が臨床心理士として採用となっていることがわかっているが、9 人中 6 人（66.7%）が常勤、3 名（33.3%）が非常勤としての採用であることがわかる。

臨床心理士としての採用は、若干であるが常勤の方が結果となった。



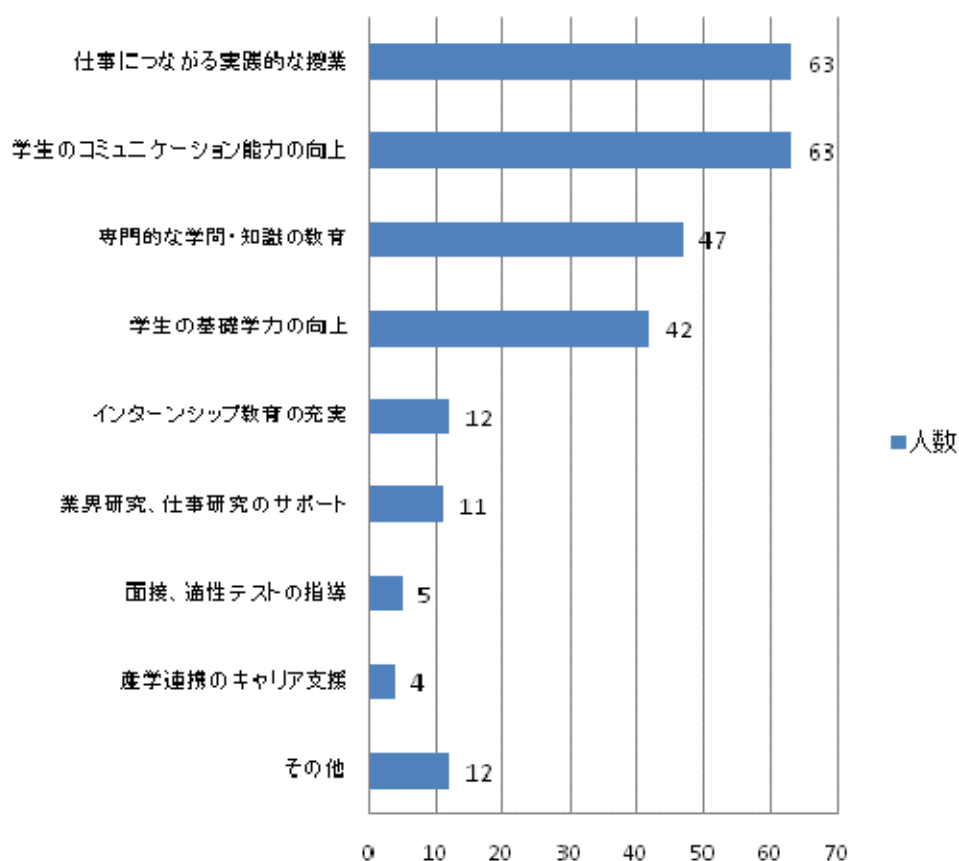
Q5. 採用担当者が大学に求めるもの

企業・法人 84 カ所に、大学に求めるものを聞いたところ、図 47 の通り回答を得た。最も回答が多かったのは、「仕事につながる実践的な授業」と、「学生のコミュニケーション能力の向上」で、63 カ所（75.0%）がそれぞれ回答した。次いで「専門的な学問・知識の教育」が 47 カ所（56.0%）、「学生の基礎学力の向上」が 42 カ所（50.0%）で、それぞれ半数の企業・法人が回答した。

心理学関連の仕事は福祉や医療現場など、対人関係が非常に多いため、「仕事につながる実践的な授業」と「コミュニケーション能力の向上」の回答が多い理由と推測される。

一方、「業界研究、仕事研究のサポート」、「面接、適性テストの指導」などは主に就職活動の対策であるが、回答が少ないことから、企業・法人の採用担当者からはあまり求められていないと言える。

図47 採用担当者が大学に求めるもの



Q6. 今後の新卒の採用計画について

【学部】

企業・法人 84 カ所のうち、「採用を拡大する予定」と回答したのは 3 カ所（3.6%）、「ほぼ現行並みの採用枠とする予定」が 28 カ所（33.3%）、「優秀な学生がいた場合のみ採用する予定」が 6 カ所（7.1%）、「採用枠を縮小する予定」が 1 カ所（1.2%）とそれぞれ回答した。

学部生の採用については、合計で 38 カ所（45.2%）と、半数近くの企業・法人が採用を行う計画であることがわかった。

一方、「しばらく採用は考えていない」と 19 カ所（22.6%）が回答している。

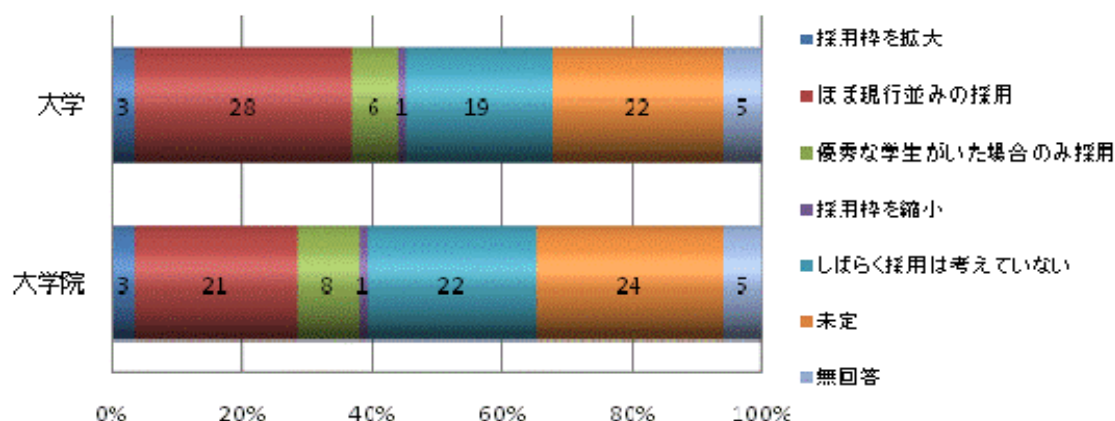
【大学院】

企業・法人 84 カ所のうち、「採用を拡大する予定」と回答したのは 3 カ所（3.6%）、「ほぼ現行並みの採用枠とする予定」が 21 カ所（25.0%）、「優秀な学生がいた場合のみ採用する予定」が 8 カ所（9.5%）、「採用枠を縮小する予定」が 1 カ所（1.2%）とそれぞれ回答した。

大学院生の採用については、合計で 33 カ所（39.3%）の企業・法人が採用を行う計画であることがわかった。

大学院生の採用は、「ほぼ現行並みの採用枠とする予定」と回答した企業・法人が学部卒の採用枠に比べ、若干少ないが、一方で「優秀な学生がいた場合のみ採用する予定」については、学部卒者が 6 カ所に対して、大学院修了者が 8 カ所であるため、大学院修了者については学部卒者に比してより、吟味して採用している傾向が予想される。

図48 今後の新卒の採用計画



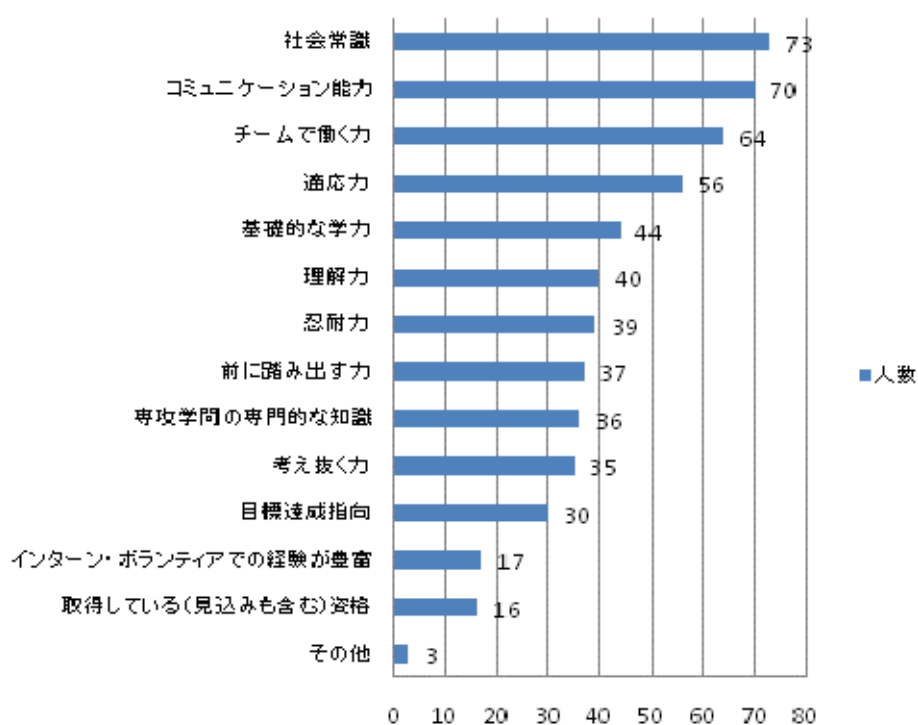
Q7. 企業・法人が新卒生に求める能力

【学部卒業者】

企業・法人 84 カ所に、学部卒業者に求める能力を聞いたところ、「社会常識」と 73 カ所（86.9%）もの回答があった。次いで「コミュニケーション能力」70 カ所（83.3%）、「チームで働く力」64 カ所（76.2%）、「適応力」56 カ所（66.7%）と、それぞれ多くの回答があった。

それぞれの回答数は図 49 の通りである。

図49 企業・法人が求める能力（大学卒業者）

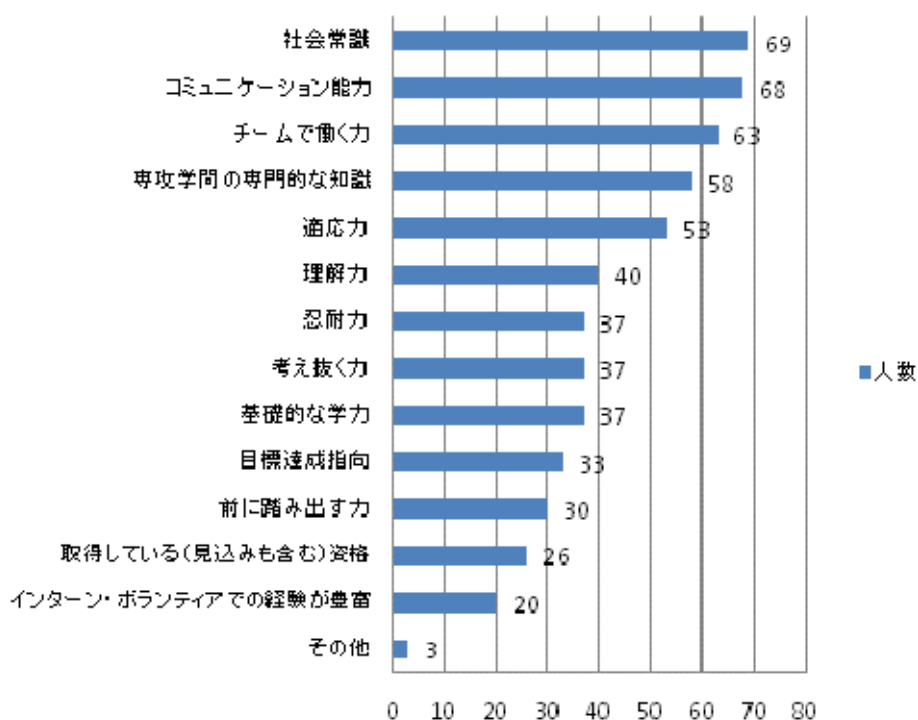


【大学院修了者】

大学院修了者に求める能力を聞いたところ、「社会常識」と 69 カ所（82.1%）が最も多い回答であった。次いで「コミュニケーション能力」68 カ所（81.0%）、「チームで働く力」63 カ所（75.0%）、「適応力」53 カ所（63.1%）と、ほぼ大学卒業者との回答と同じであることがわかる。

それぞれの回答数は図 50 の通りである。

図50 企業・法人が求める能力（大学院修了者）



【大学卒業者と大学院修了者との違い】

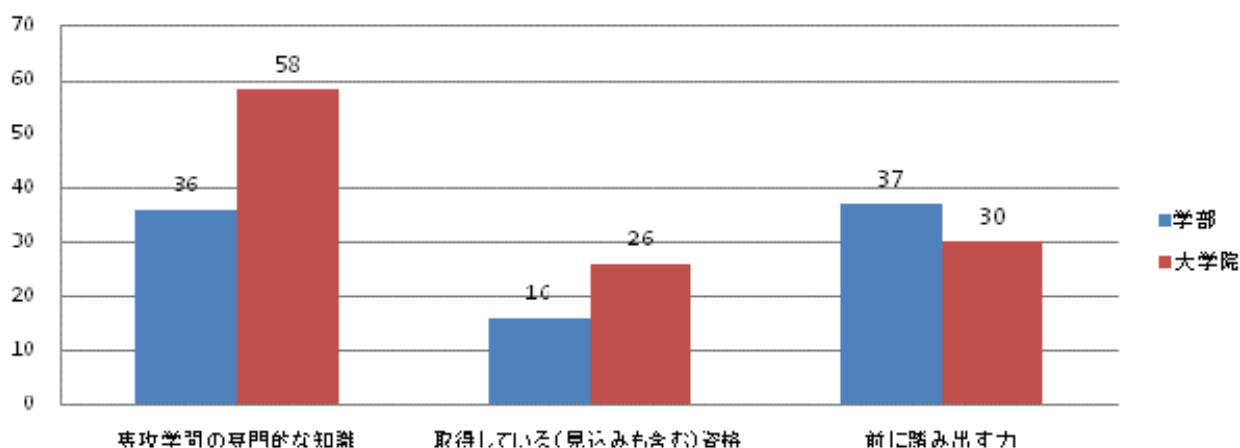
上位 5 つは前述した通り、大学卒業者と大学院修了者との違いは見られなかったが、それ以外で見ると、それぞれの特徴として、大学卒業者は「前に進み出す力」を求められ、大学院修了者は「専門学問の専門的な知識」、「取得している（見込みも含む）資格」を求められていることが回答からわかる。

「前に踏み出す力」の回答を見ると、大学卒業者は 37 カ所、大学院修了者は 30 カ所であった。若干であるが、大学卒業者は大学院修了生と比べ、「前に踏み出す力」が求められている傾向がある。

また、「専門学問の専門的な知識」を見ると、大学院修了者が 58 カ所、大学卒業者は 36 カ所と差があり、企業・法人からは大学院で養った専門的な知識が求められていることがわかる。

「取得している（見込みも含む）資格」も「専門学問の専門的な知識」と同様に、大学卒業者と比べ大学院修了者に求められている傾向が、回答よりわかった。

図50 学部卒と大学院修了生の求められていること



Q8. 龍谷大学文学部臨床心理学科の卒業生を採用する可能性

企業・法人84カ所に龍谷大学文学部臨床心理学科の卒業生を採用する可能性があるかを聞いたところ、「採用する可能性は大いにある」と回答した企業・法人は11カ所（13.1%）であった。

また、「状況に応じて採用を考える」に32カ所（38.1%）が回答し、合計43カ所（51.2%）の企業・法人が採用する可能性があると回答した。さらに、「どちらとも言えない」に27カ所（32.1%）が回答したことから、今後の企業・法人の採用計画しだいでは、さらに可能性が増えると考えられる。

図51 学部卒の採用の可能性

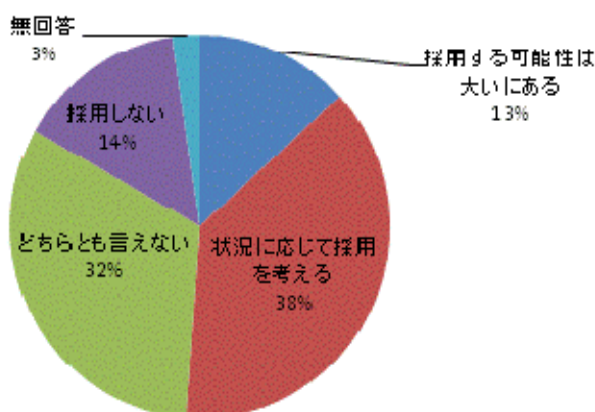
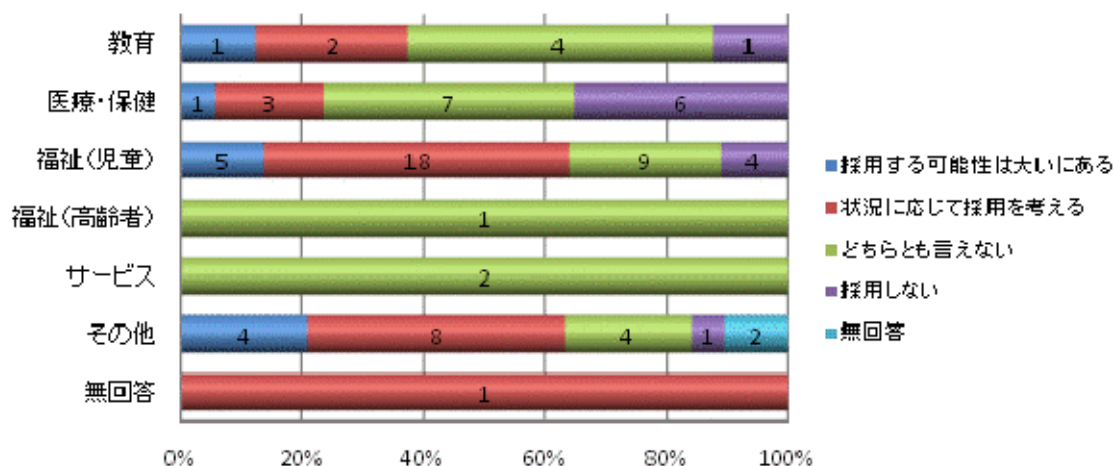


図52にて採用の可能性を事業分野別で見ると、「福祉（児童）」と「その他」の企業・法人が採用に積極的であることがわかる。

「福祉（児童）」36カ所のうち、「採用する可能性は大いにある」に5カ所（13.9%）、「状況に応じて採用を考える」に18カ所（50.0%）とそれぞれ回答があり、合計23カ所（63.9%）から採用に対して前向きな回答があった。

次いで「その他」19カ所では、「採用する可能性は大いにある」に4カ所（21.1%）、「状況に応じて採用を考える」に8カ所（42.1%）とそれぞれ回答があり、合計12カ所（63.2%）から採用に対して前向きな回答があった。

図52 採用の可能性(学部卒)×事業分野



Q9. 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻の卒業生を採用する可能性

【総合職として採用】

企業・法人 84 カ所に龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻の修了生を総合職として採用する可能を聞いたところ、「採用する可能性は大いにある」と回答した企業・法人は 10 カ所（11.9％）であった。

「状況に応じて採用を考える」に 35 カ所（41.7％）が回答し、合計 45 カ所（53.6％）の企業・法人が採用する可能性があるとは回答した。

大学卒業生と同様に、「どちらとも言えない」に 18 カ所（21.4％）が回答したことから、さらに可能性が増えると考えられる。

図53 大学院修了者の採用（総合職）

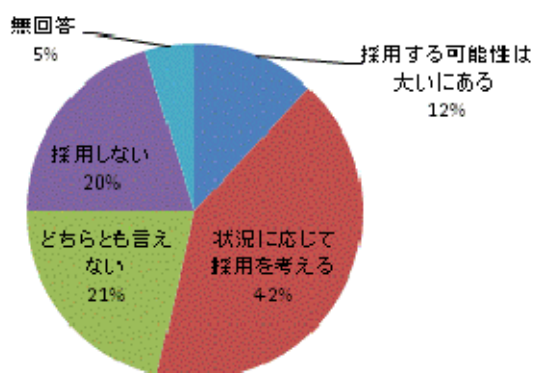
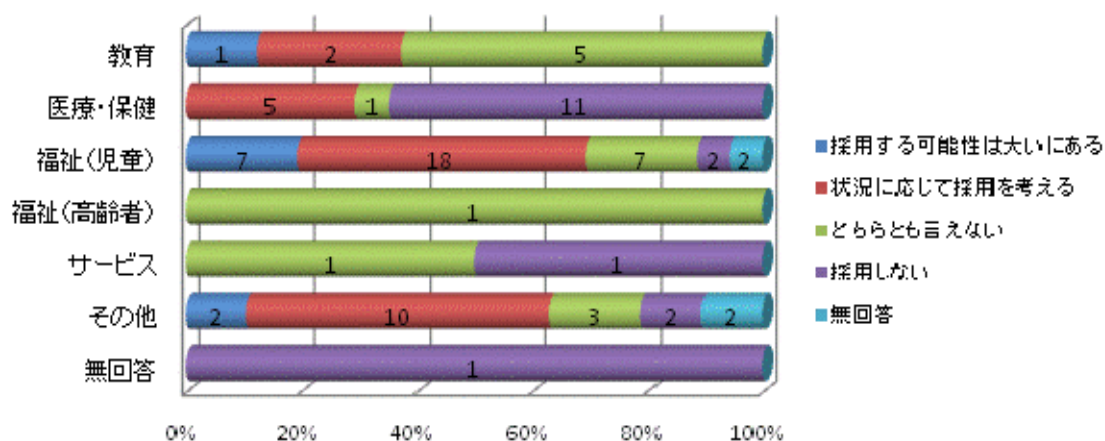


図 54 にて採用の可能性を事業分野別で見ると、学部卒業生と同様に、「福祉（児童）」と「その他」の企業・法人が採用に積極的であることがわかる。

「福祉（児童）」36 カ所のうち、「採用する可能性は大いにある」に 7 カ所（19.4％）、「状況に応じて採用を考える」に 18 カ所（50.0％）とそれぞれ回答があり、合計 25 カ所（69.4％）から採用に対して前向きな回答があり、学部卒業生よりも、高い割合であった。

次いで「その他」19 カ所では、「採用する可能性は大いにある」に 2 カ所（10.5％）、「状況に応じて採用を考える」に 10 カ所（52.6％）とそれぞれ回答があり、合計 12 カ所（63.2％）から採用に対して前向きな回答があった。

図54 採用の可能性(大学院修了生・総合職)×事業分野

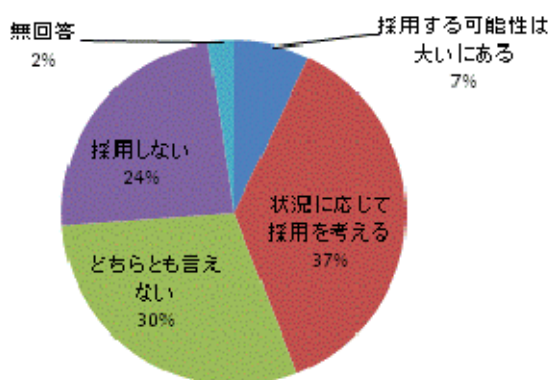


【臨床心理士（常勤）として採用】

企業・法人 84 カ所に龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻の修了生を臨床心理士（常勤）として採用する可能性を聞いたところ、「採用する可能性は大いにある」と回答した企業・法人は 6 カ所（7.1%）であった。

「状況に応じて採用を考える」には 31 カ所（36.9%）が回答し、合計 37 カ所（44.0%）が臨床心理士（常勤）として採用する可能性があるとは回答した。

図55 臨床心理士（常勤）としての採用

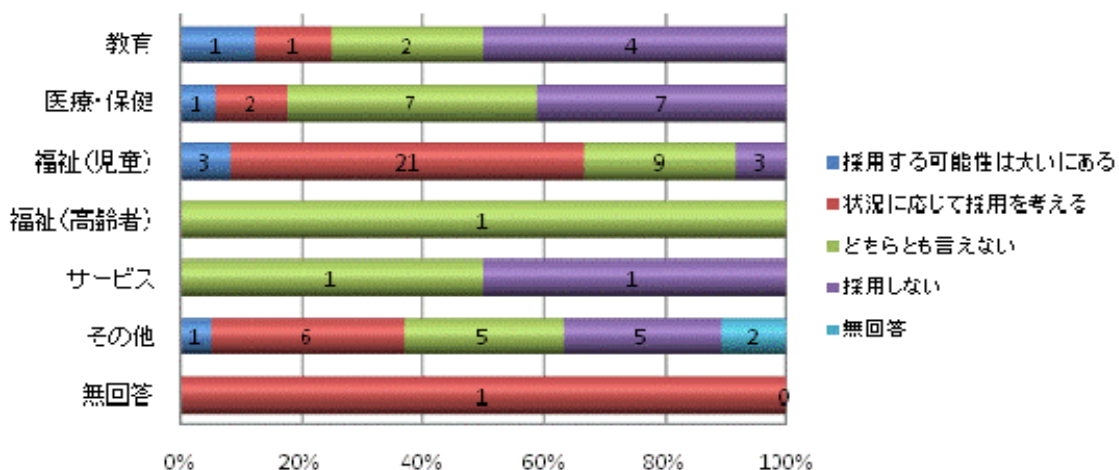


臨床心理士（常勤）の採用の可能性を、事業分野別で見ると、「福祉（児童）」の企業・法人が採用に積極的であることがわかる。

「福祉（児童）」36 カ所のうち、「採用する可能性は大いにある」に 3 カ所（8.3%）、「状況に応じて採用を考える」に 21 カ所（58.3%）とそれぞれ回答があり、合計 24 カ所（66.7%）から採用に対して前向きな回答があり、大学院修了者の総合職としての採用と同等の割合であり、人材へのニーズの高さが伺える。

また、「その他」19 カ所では、「採用する可能性は大いにある」に 1 カ所（5.3%）、「状況に応じて採用を考える」に 6 カ所（31.6%）とそれぞれ回答があり、合計 7 カ所（36.8%）から採用に対して前向きな回答があった。

図56 採用の可能性（臨床心理士・常勤）

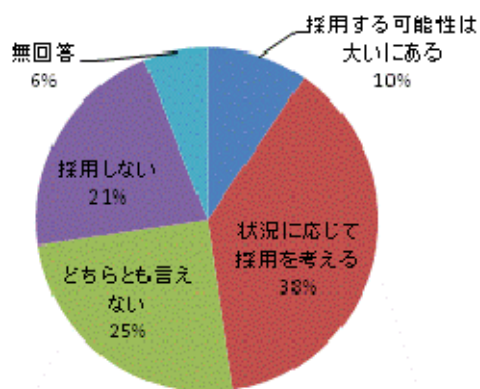


【臨床心理士（非常勤）として採用】

企業・法人 84 カ所に龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻の修了生を臨床心理士（非常勤）として採用する可能性を聞いたところ、「採用する可能性は大いにある」と回答した企業・法人は 8 カ所(9.5%)であった。

「状況に応じて採用を考える」には 35 カ所（38.1%）が回答し、合計 43 カ所（51.2%）が臨床心理士（非常勤）として採用する可能性があるとは回答した。

図57 臨床心理士(非常勤)としての採用

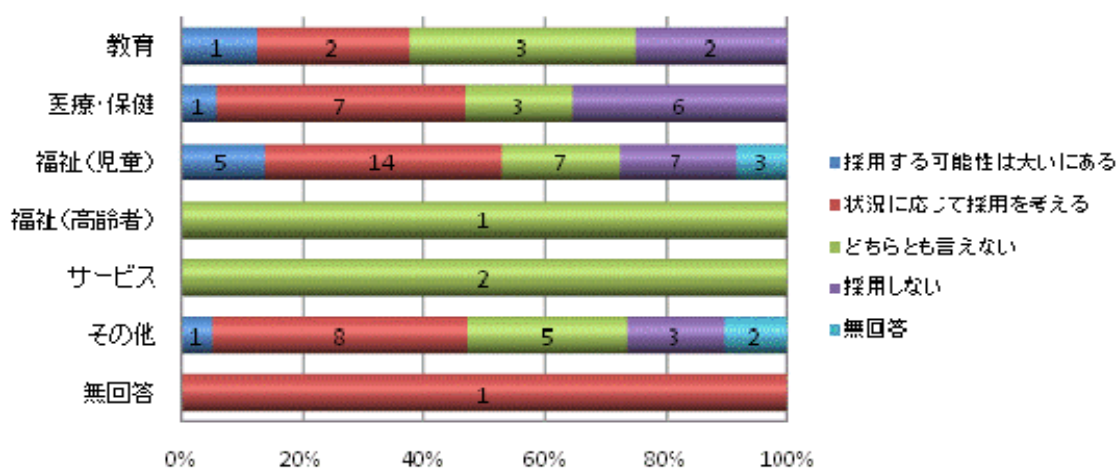


臨床心理士（非常勤）の採用の可能性を、事業分野別で見ると、「教育」「医療・保健」「福祉（児童）」「その他」それぞれ企業・法人が採用に積極的であることがわかる。

「福祉（児童）」36 カ所のうち、「採用する可能性は大いにある」に 5 カ所（13.9%）、「状況に応じて採用を考える」に 14 カ所（38.9%）とそれぞれ回答があり、合計 19 カ所（52.8%）から採用に対して前向きな回答があった。

また、「医療・保健」17 カ所では、「採用する可能性は大いにある」に 1 カ所（5.9%）、「状況に応じて採用を考える」に 7 カ所（41.2%）とそれぞれ回答があり、合計 8 カ所（47.1%）から採用に対して前向きな回答があった。

図58 採用の可能性(臨床心理士・非常勤)



4. 考察

(1) 龍谷大学文学部臨床心理学科の卒業生の採用について

＜Q8 龍谷大学文学部臨床心理学科の卒業生を採用する可能性があるか＞で、「採用する可能性は大いにある」が 11 カ所、「状況に応じて採用を考える」が 32 カ所と回答があり、合計で 43 カ所（51.2%）の企業・法人が採用に対して前向きな回答を得た。

(2) 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻の修了生の採用について

＜Q9 総合職としての採用の可能性はあるか＞で、合計 45 カ所（53.6%）で「可能性は大いにある」、「状況に応じて考える」と回答を得た。

また、＜Q9 臨床心理士（常勤）としての採用の可能性はあるか＞で、合計 37 カ所（44.0%）で「可能性は大いにある」、「状況に応じて考える」と回答を得た。＜Q9 臨床心理士（非常勤）としての採用の可能性はあるか＞では、合計 40 カ所（47.6%）で「可能性は大いにある」、「状況に応じて考える」と回答を得た。

(3) 児童福祉施設での従事者数が増加している。

＜Q8 学部卒生の採用の可能性＞および＜Q9 大学院修了者の採用の可能性＞で、「採用する可能性は大いにある」、「状況によっては採用を考える」と最も多く回答した事業分野は、「福祉（児童）」であった。

厚生労働省が発表している【平成 21 年 社会福祉施設等調査】の結果を見ると、児童福祉施設での常勤換算従事者数が、平成 16 年（2004 年）の 476,684 人から、平成 21 年（2009 年）には 519,218 人と、5 年間で 42,534 人も増加しており、アンケートの回答の通り、採用ニーズが非常に高いことが分かる【外部資料④】。

また、臨床心理士の需要が増加した例として、スクールカウンセラーがある。問題を抱える児童、生徒が増加したことから、文部科学省の指導のもと平成 7 年度（1995 年）から開始された『スクールカウンセラー活用調査研究委託事業』にて、スクールカウンセラーとして臨床心理士が各学校で活躍している。平成 7 年度（1995 年）の 154 校から、平成 18 年度（2006 年）には 9,978 校と 11 年間で 9,824 校もの学校で、臨床心理士が活躍の場を拡大している。【外部資料⑤】。

2011 年現在、教育分野のみならず、労働・産業分野（就職難からくる心理的不安のサポート）や、医療・福祉分野など、活躍の場を増やし始めている。

以上、(1)(2)(3)より、平成 24 年 4 月に設置を予定する龍谷大学文学部臨床心理学科及び龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻における、就職の見通しに関して、今回の調査にご協力いただいた企業・法人の約半数で採用に関する前向きな回答を得た。したがって、外部機関としての客観的な判断により、学生の就職先の確保について、問題が無いと分析する。

以上

外 部 資 料

出典:河合塾ガイドライン2006～2010年

心理学系の大学一覧 [近畿エリア] ※一般+センター

大学データ			定員				志願者				合格者				志願者前年比				倍率			
大学名	学部名	学科名	06	07	08	09	10	06	07	08	09	10	07/06	08/07	09/08	10/09	06	07	08	09	10	
京都府立大学	教育学部	教育科学	60	338	205	207	225	232	63	61	61	62	62	0.61	1.01	1.09	1.03	5.37	3.36	3.39	3.63	3.74
	人間科学部	人間科学	130	462	491	467	562	533	141	141	136	140	142	1.06	0.95	1.20	0.95	3.28	3.48	3.43	4.01	3.75
	発達科学部	人間形成	90	456	383	432	386	457	90	90	93	91	92	0.84	1.13	0.89	1.18	5.07	4.26	4.65	4.24	4.97
	文学部	人間行動	56	787	691	794	730	773	150	152	153	154	168	0.88	1.15	0.92	1.06	5.25	4.55	5.19	4.74	4.60
	人間社会学部	人間科学	80	487	494	418	537	362	86	90	87	81	81	1.01	0.85	1.28	0.67	5.66	5.49	4.80	6.63	4.47
京都府立大学	人間社会学部	臨床・発達心理専攻	50	58	39	-	-	-	52	35	-	-	-	0.67	-	-	-	1.12	1.11	-	-	-
	文学部	教育・心理	100	-	-	-	481	417	-	-	-	109	97	-	-	-	0.87	-	-	-	4.41	4.30
	人間文化学部	心理	80	-	-	133	123	89	-	-	108	97	78	-	-	0.92	0.72	-	-	1.23	1.27	1.14
	文学部	心理	120	-	-	-	-	45	-	-	-	-	43	-	-	-	-	-	-	-	-	1.05
	発達教育学部	教育心理	170	485	501	538	306	520	99	135	117	102	114	1.03	1.07	0.57	1.70	4.90	3.71	4.60	3.00	4.56
京都府立大学	発達教育学部	臨床心理専攻	160	116	81	87	55	68	78	76	78	35	50	0.70	1.07	0.63	1.24	1.49	1.07	1.12	1.57	1.36
	心理学部	臨床心理	200	-	-	755	728	639	-	-	194	170	166	-	-	0.96	0.88	-	-	3.89	4.28	3.85
	同文社	心理	150	853	831	1029	1447	1195	144	212	161	224	311	0.97	1.24	1.41	0.83	5.92	3.92	6.39	6.46	3.84
	社会学部	社会福祉	80	184	93	86	96	109	126	81	71	59	72	0.51	0.92	1.12	1.14	1.46	1.15	1.21	1.63	1.51
	教育学部	臨床心理	60	801	682	553	492	701	103	110	123	128	127	0.85	0.81	0.89	1.42	7.78	6.20	4.50	3.84	5.52
京都府立大学	文学部	心理学	1102	2187	2140	1842	1512	1536	573	534	515	437	423	0.98	0.86	0.82	1.02	3.82	4.01	3.58	3.46	3.63
	立命館大学	心理	200	1551	1000	869	930	939	295	250	252	249	211	0.64	0.87	1.07	1.01	5.26	4.00	3.45	3.73	4.45
	追手門学院	心理	200	-	-	225	241	320	-	-	39	70	76	-	-	1.07	1.33	-	-	5.77	3.44	4.21
	人間社会学部	人間社会	120	155	258	135	66	非	67	66	58	48	非	1.66	0.52	0.49	非	2.31	3.91	2.33	1.38	非
	人間社会学部	健康コミュニケーション	100	111	88	81	91	非	67	60	60	55	非	0.79	0.92	1.12	非	1.66	1.47	1.35	1.65	非
大阪府立大学	人間社会学部	総合人文	700	14795	16059	14324	12917	10918	2428	2555	2667	2410	2062	1.09	0.89	0.90	0.85	6.09	6.29	5.37	5.36	5.29
	社会学部	臨床心理	100	239	216	134	109	47	84	127	109	91	40	0.90	0.62	0.81	0.43	2.85	1.70	1.23	1.20	1.18
	総合社会学部	総合社会	450	-	-	-	-	2247	-	-	-	-	278	-	-	-	-	-	-	-	-	8.08
	人間社会学部	人間心理	80	78	41	49	31	非	69	37	45	27	非	0.53	1.20	0.63	非	1.13	1.11	1.09	1.15	非
	人間社会学部	心理	100	55	40	25	15	63	30	17	20	15	47	0.73	0.63	0.60	4.20	1.83	2.35	1.25	1.00	1.34
大阪府立大学	人間社会学部	心理	150	-	-	154	153	148	-	-	104	113	130	-	-	0.99	0.97	-	-	1.48	1.35	1.14
	心理社会学部	心理社会学	70	-	-	-	-	71	-	-	-	-	57	-	-	-	-	-	-	-	-	1.25
	現代社会学部	現代社会	250	-	323	193	205	251	-	77	137	166	207	-	0.60	1.06	1.22	-	4.19	1.41	1.23	1.21
	人間社会学部	人間心理	115	179	254	234	204	非	95	87	82	77	非	1.42	0.92	0.87	非	1.88	2.92	2.85	2.65	非
	社会学部	社会福祉	200	473	226	173	110	111	139	135	110	75	77	0.48	0.77	0.64	1.01	3.40	1.67	1.57	1.47	1.44
大阪府立大学	社会学部	総合心理科学	175	2217	1818	1755	1801	1286	505	544	522	315	214	0.82	0.97	1.03	0.71	4.39	3.34	3.36	5.72	6.01
	社会学部	臨床福祉心理	100	176	83	27	非	非	109	49	9	非	非	0.47	0.33	非	非	1.61	1.69	3.00	非	非
	心理学部	心理	60	55	49	45	46	35	42	35	35	41	25	0.89	0.92	1.02	0.76	1.31	1.40	1.29	1.12	1.40
	人間社会学部	心理	90	266	196	955	416	848	145	176	514	210	362	0.74	4.87	0.44	2.04	1.83	1.11	1.86	1.98	2.34
	現代人間社会学部	心理社会学	70	68	80	47	33	33	59	28	39	27	28	1.18	0.59	0.70	1.00	1.15	2.86	1.21	1.22	1.18
神戸市立大学	人間社会学部	人間心理	150	686	655	709	498	530	334	258	222	227	204	0.95	1.08	0.70	1.06	2.05	2.54	3.19	2.19	2.60
	人間社会学部	心理	70	124	102	91	105	97	99	75	72	72	65	0.82	0.89	1.15	0.92	1.25	1.36	1.26	1.46	1.49
	人間社会学部	心理・行動科学	80	468	523	702	574	554	151	109	85	113	179	1.12	1.34	0.82	0.97	3.10	4.80	8.26	5.08	3.09
	人間社会学部	発達教育	60	83	78	155	152	155	79	72	86	90	100	0.94	1.99	0.98	1.02	1.05	1.08	1.80	1.69	1.55
	文学部	心理・社会福祉	150	552	795	1026	1040	1188	252	278	383	361	308	1.44	1.29	1.01	1.14	2.19	2.86	2.68	2.88	3.86
大阪府立大学	心理学部	臨床心理	50	104	77	66	44	41	92	68	57	6	11	0.74	0.86	-	0.93	1.13	1.13	1.16	1.33	1.55
	発達心理学部	心理	30	30	17	8	17	非	92	68	57	6	15	-	-	-	2.13	1.90	-	-	1.67	1.27
	心理学部	ビジネス心理	30	-	-	-	10	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	心理学部	心理	100	253	253	203	178	256	124	129	112	118	162	1.00	0.80	0.88	1.44	2.04	1.96	1.81	1.51	1.58
	人間社会学部	人間関係臨床心理	80	72	59	84	76	62	21	31	35	19	18	0.82	1.42	0.90	0.82	3.43	1.90	2.40	4.00	3.44
奈良県立大学	人間社会学部	心理	161	191	191	135	135	130	114	102	92	93	85	1.19	0.71	1.00	0.96	1.41	1.87	1.47	1.45	1.53
	社会学部	総合社会	76	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計			6,814	30,135	30,095	29,937	27,868	28,042	71,105	7,082	7,843	7,020	7,022	1.00	0.99	0.93	1.01	4,24	4,25	3,82	3,97	3,99
平均			148.1	861	836	768	680	701	203	197	201	171	176	0.97	0.92	0.89	1.03	4,24	4,25	3,82	3,97	3,99
…設置なし …非公営 …非単独																						

平成22年の大学進学率と現・高校2年生の生徒数

平成22年の大学進学率

	卒業者数	大学進学者数	進学率
大阪府	67,766	34,813	51.4%
京都府	22,209	14,869	67.0%
兵庫県	45,742	24,808	54.2%
滋賀県	12,092	7,123	58.9%
奈良県	12,063	7,219	59.8%
和歌山県	9,423	4,715	50.0%
合計	169,295	93,547	55.3%

現・2年生の生徒数

	生徒数	大学進学者(予想)	進学率
大阪府	72,640	37,317	51.4%
京都府	23,065	15,442	67.0%
兵庫県	9,106	4,939	54.2%
滋賀県	12,477	7,350	58.9%
奈良県	46,241	27,673	59.8%
和歌山県	9,548	4,778	50.0%
合計	173,077	95,637	55.3%

※2年生の進学率は、平成22年の各県の進学率を参考

※大学進学者数は予想値です。

出典：平成22年度 学校基本調査より

2008年度入試～2010年度入試 文学研究科教育学専攻 (臨床心理学領域) 志願・合格・入学

出身	2008				2009				2010				平均
	秋期	春期	合計		秋期	春期	合計		秋期	春期	合計		
本学 教育学専攻 以外	5	2	7		4	3	7		0	0	0		5
	0	1	1		2	2	4		0	0	0		2
	0	1	1		1	2	3		0	0	0		1
他大学	23	10	33		26	11	37		13	7	20		30
	7	4	11		6	3	9		6	4	10		10
	3	4	7		4	3	7		3	2	5		6
本学 教育学専攻	5	4	9		7	6	13		5	4	9		10
	1	0	1		1	4	5		0	3	3		3
	1	0	1		1	4	5		0	3	3		3

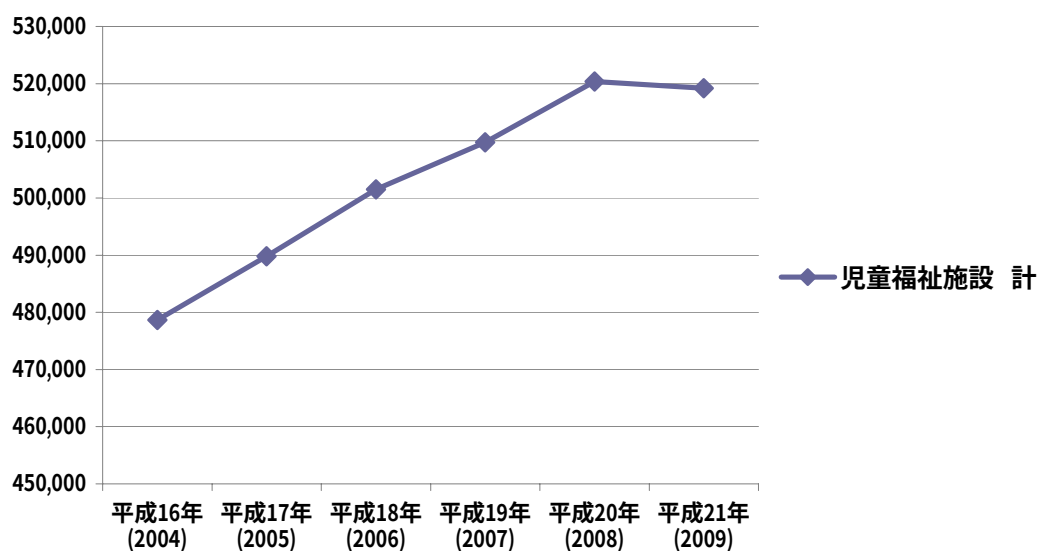
児童福祉施設の年次別常勤換算従事者数の推移

	平成16年 (2004)	平成17年 (2005)	平成18年 (2006)	平成19年 (2007)	平成20年 (2008)	平成21年 (2009)
児童福祉施設 計	478,684	489,803	501,529	509,719	520,388	519,218
乳児院	3,511	3,594	3,755	3,831	3,831	3,883
母子生活支援施設	1,906	1,941	1,952	1,988	1,988	1,904
保育所	404,912	416,542	426,843	434,853	434,853	446,272
児童養護施設	13,853	14,069	14,280	14,641	14,641	14,848
知的障害児施設	7,461	7,191	7,187	6,600	6,600	6,157
自閉症児施設	521	522	518	270	270	309
知的障害児通園施設	4,534	4,629	4,417	4,592	4,592	4,534
盲児施設	146	143	159	137	137	118
ろうあ児施設	217	234	196	190	190	143
難聴幼児通園施設	301	307	297	310	310	288
肢体不自由児施設	4,927	4,584	4,462	4,674	4,674	3,783
肢体不自由児通園施設	1,546	1,575	1,517	1,571	1,571	1,674
肢体不自由児療護施設	201	223	193	200	200	162
重症心身障害児施設	14,087	14,326	14,631	15,297	15,297	15,385
情緒障害時短期治療	649	688	790	805	805	815
児童自立支援施設	1,749	1,769	1,793	1,799	1,799	1,717
児童家庭支援センター	133	148	154	177	177	188
児童館	17,082	17,319	17,592	17,785	17,785	17,038

前年増加率	—	102.3%	102.4%	101.6%	102.1%	99.8%
-------	---	--------	--------	--------	--------	-------

出典：厚生労働省

児童福祉施設数の推移

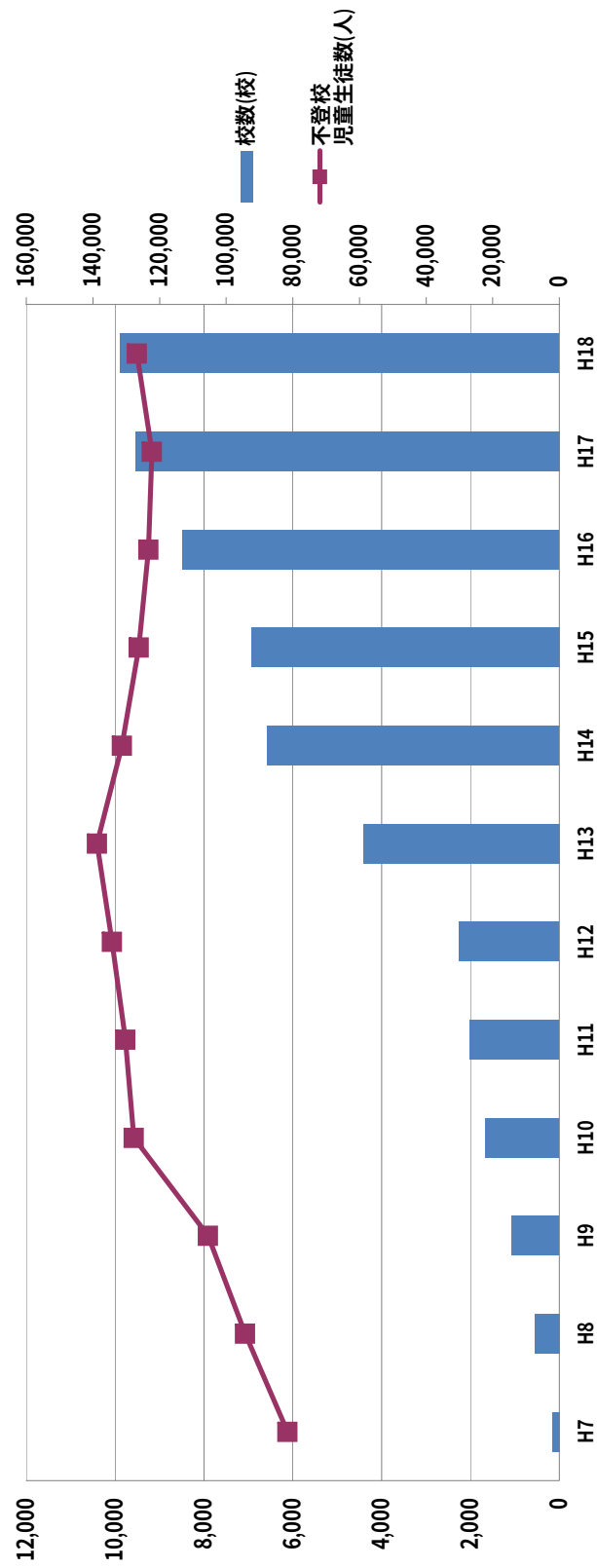


スクールカウンセラーの設置校数と不登校児童生徒数の推移

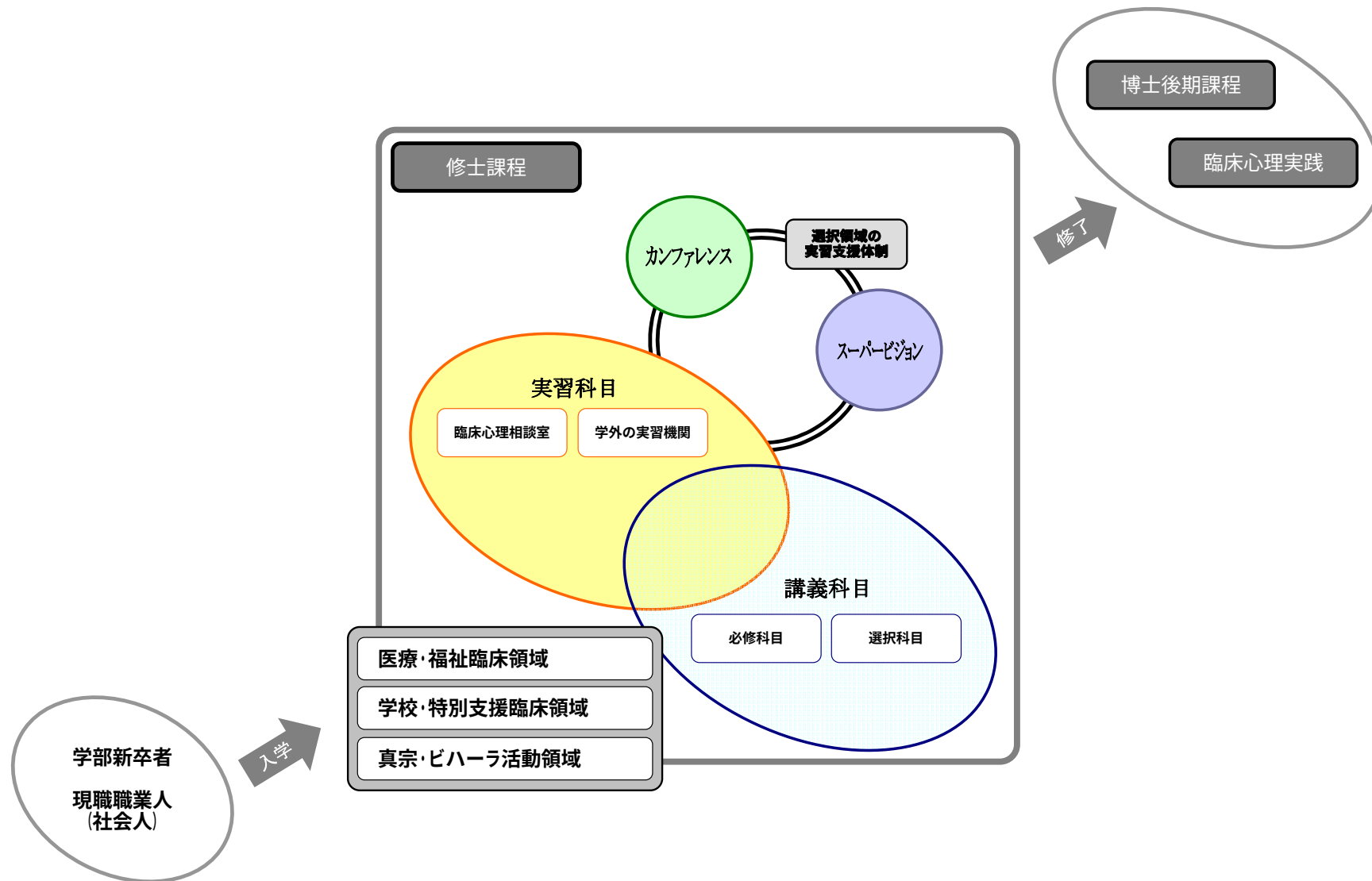
出典：文部科学省

	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
校数(校)	154	553	1,065	1,661	2,015	2,250	4,406	6,572	6,941	8,485	9,547	9,878
不登校児童生徒数(人)	81,591	94,351	105,466	127,692	130,227	134,286	138,722	131,252	126,226	123,358	122,255	126,764

スクールカウンセラー設置校数と不登校児童生徒数の推移



■臨床心理学専攻 人材養成概念図



■文学研究科臨床心理学専攻 履修モデルその1 「医療・福祉臨床領域選択」 (修士課程・博士後期課程)

() 内は単位数

【修士課程】

	1年次	2年次
臨床心理実践を行うための基礎科目	臨床心理学特論 (4)	臨床心理実習 (2)
	臨床心理面接特論 (4)	
	臨床心理査定特論 (4)	
	臨床心理基礎実習 (2)	
演習科目 修士論文・事例研究論文の作成を目指した論文指導と臨床心理実践のスーパービジョン等を行う	臨床心理学演習Ⅰ (4)	臨床心理学演習Ⅱ (4)
		修士論文
		事例研究論文
A群科目:研究のための基礎科目群	臨床心理学研究法特論 (2)	
B群科目:人間科学を基本とした科目群		比較行動学特論 (2)
C群科目:社会科学を基本とした科目群		犯罪心理学特論 (2)
D群科目:医学を基本とした科目群		精神医学特論 (2)
E群科目:臨床心理学専攻の独自性を示す選択科目群		心理療法特論 (2)
年次別修得単位	20	14
履修モデル修得単位数		34

【博士後期課程】

	1年次	2年次	3年次
博士論文と必修論文指導科目	臨床心理学演習Ⅰ (4)	臨床心理学演習Ⅱ (4)	臨床心理学演習Ⅲ (4)
			博士論文
年次別修得単位	4	4	4
履修モデル修得単位数			12

■文学研究科臨床心理学専攻 履修モデルその2 「学校・特別支援臨床領域選択」 (修士課程・博士後期課程)

() 内は単位数

【修士課程】

	1年次	2年次
臨床心理実践を行うための基礎科目	臨床心理学特論 (4)	臨床心理実習 (2)
	臨床心理面接特論 (4)	
	臨床心理査定特論 (4)	
	臨床心理基礎実習 (2)	
演習科目 修士論文・事例研究論文の作成を目指した論文指導と臨床心理実践のスーパービジョン等を行う	臨床心理学演習Ⅰ (4)	臨床心理学演習Ⅱ (4)
		修士論文
		事例研究論文
A群科目:研究のための基礎科目群	心理統計法特論 (2)	
B群科目:人間科学を基本とした科目群		学習心理学特論 (2)
C群科目:社会科学を基本とした科目群		人間関係学特論 (2)
D群科目:医学を基本とした科目群		障害者児心理学特論 (2)
E群科目:臨床心理学専攻の独自性を示す選択科目群		グループアプローチ特論 (2)
年次別修得単位	20	14
履修モデル修得単位数		34

【博士後期課程】

	1年次	2年次	3年次
博士論文と必修論文指導科目	臨床心理学演習Ⅰ (4)	臨床心理学演習Ⅱ (4)	臨床心理学演習Ⅲ (4)
			博士論文
年次別修得単位	4	4	4
履修モデル修得単位数			12

■文学研究科臨床心理学専攻 履修モデルその3 「真宗・ビハラー活動領域選択」 (修士課程・博士後期課程)

() 内は単位数

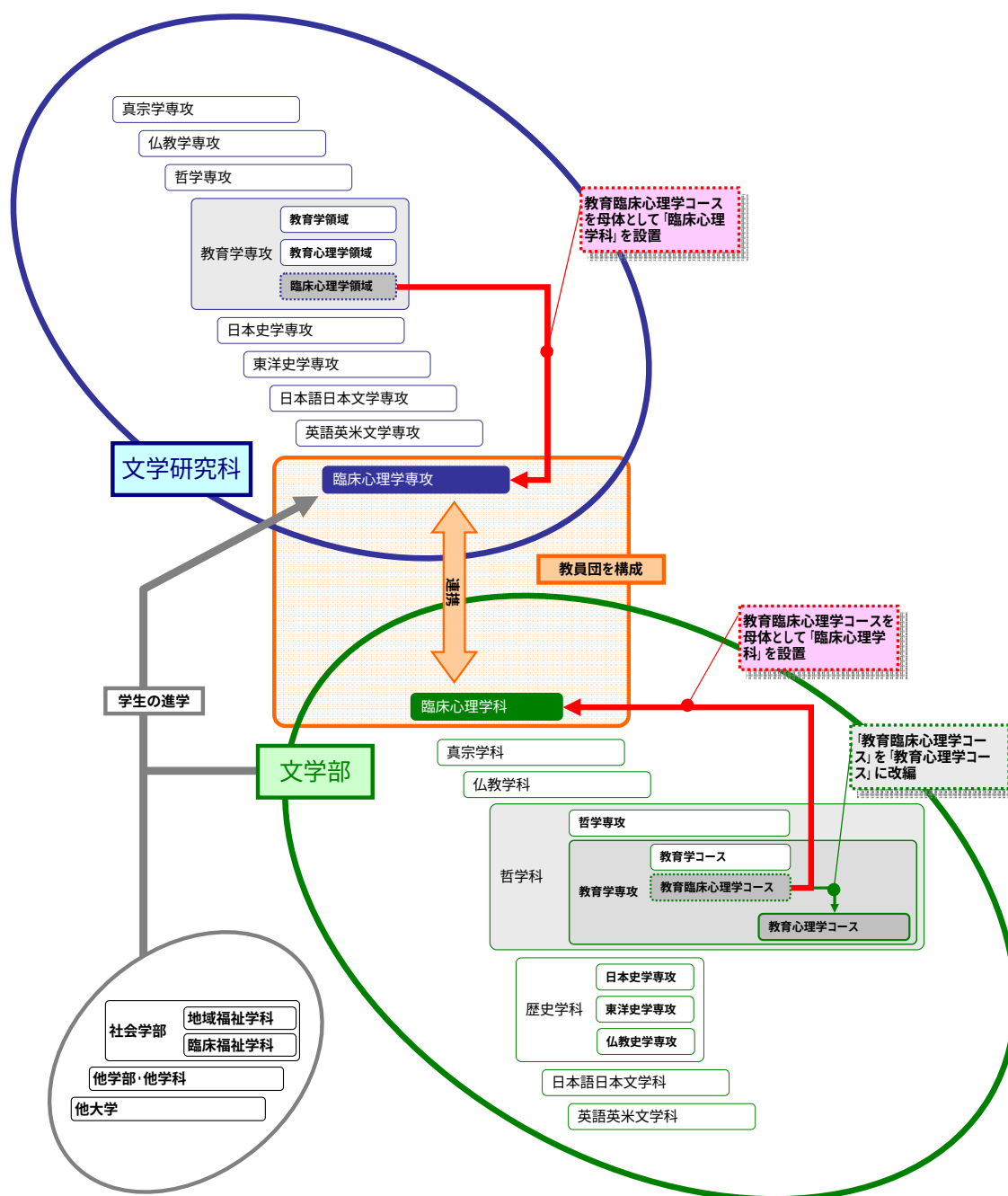
【修士課程】

	1年次	2年次
臨床心理実践を行うための基礎科目	臨床心理学特論 (4)	臨床心理実習 (2)
	臨床心理面接特論 (4)	
	臨床心理査定特論 (4)	
	臨床心理基礎実習 (2)	
演習科目 修士論文・事例研究論文の作成を目指した論文指導と臨床心理実践のスーパービジョン等を行う	臨床心理学演習Ⅰ (4)	臨床心理学演習Ⅱ (4)
		修士論文
		事例研究論文
A群科目:研究のための基礎科目群	臨床心理学研究法特論 (2)	
B群科目:人間科学を基本とした科目群		人格心理学特論 (2)
C群科目:社会科学を基本とした科目群		家族心理学特論 (2)
D群科目:医学を基本とした科目群		老年心理学特論 (2)
E群科目:臨床心理学専攻の独自性を示す選択科目群		臨床心理地域援助特論 (2)
年次別修得単位	20	14
履修モデル修得単位数		34

【博士後期課程】

	1年次	2年次	3年次
博士論文と必修論文指導科目	臨床心理学演習Ⅰ (4)	臨床心理学演習Ⅱ (4)	臨床心理学演習Ⅲ (4)
			博士論文
年次別修得単位	4	4	4
履修モデル修得単位数			12

■既設学部との関係図



■職員定年規程

制定：昭和54年2月9日

第1条 この規程は、「学校法人龍谷大学就業規則」第40条に基づき、本学専任職員の定年について規定する。

第2条 教育職員の定年は、教授については満68歳とし、准教授・講師・助教・助手については満65歳とする。

2 事務職員の定年は、満65歳とする。

第3条 定年による退職期日は、定年に達した当該年度末とする。

第4条 退職手当の支給については、別に定める。

付 則

- 1 この規程は、昭和54年4月1日から施行する。ただし、将来の情勢の推移を考慮して、施行の年度から10年以内に再検討するものとする。
- 2 「文学部・短期大学部教育職員停年規程」及び「事務職員停年規程」は廃止する。

付 則（昭和62年5月19日第2条第2項、第3項改正・追加）

この規程は、昭和62年5月19日から施行する。

付 則（昭和63年1月13日第2条改正）

この規程は、昭和63年1月13日から施行する。

付 則（平成4年1月16日題名改正）

この規程は、平成4年1月16日から施行する。

<参考>

（評議会議事録に次の事項を記載する）

龍谷大学職員定年規程の一部を改正する規程（制定昭和62年5月19日）に規定する「教育研究上の特別な事情」とは、新学部を設置を意味するものとする。また、第2条第2項は、昭和70年3月31日に廃止するものとする。

付 則（平成16年3月25日第2条改正）

この規程は、平成16年3月25日から施行する。

付 則（平成19年2月22日第2条改正）

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

■特別任用教員規程

制定：昭和58年4月1日

(目的)

第1条 龍谷大学及び龍谷大学短期大学部（以下「本学」という。）の教育・研究の向上をはかるために特別任用教員を置く。

2 前項の任用，服務，給与，諸手当等については，別に定める場合を除いて，この規程の定めるところによる。

(資格・義務)

第2条 特別任用教員とは，教学上特に必要と認められた者で，給与及び諸手当，定年の適用について特別の取扱いをすることを条件として採用された，次の各号に該当する者をいう。

(1) 本学の教育方針に賛同し，学部教授会又は大学院研究科委員会が，教育研究遂行上必要と認める者で，教授たる資格を有する者。ただし，現に本学専任教員として在籍する者及び本学を定年退職した者を除く。

(2) 本学を定年退職した者で，大学院研究科委員会が大学院の講義編成上特に必要と認める者。

(3) 本学の教育方針に賛同し，学部教授会が，講義編成上特に必要と認める者で，教授，准教授，講師，助教及び助手（実験・実習講師及び実験・実習助手を含む）たる資格を有する者。

(4) 本学の教育方針に賛同し，法務研究科教授会が，教育研究上必要と認める者で，教授たる資格を有する者。

(5) 再雇用制度の利用を申し出た者。

2 特別任用教員は，本学以外の学校の専任教員となることはできない。

3 特別任用教員（実験・実習講師及び実験・実習助手を除く。）は，授業及び研究に関して教授会又は大学院研究科委員会に意見を述べることができる。

(任用)

第3条 特別任用教員としての任用及び特別任用教員の勤務条件については，当該教員の所属すべき教授会の議を経て，学長の進達により理事長が決定する。

2 特別任用教員に任用される者は，特別任用教員就任承諾書（別記様式）を，学長に提出しなければならない。

(任用期限・任用期間)

第4条 第2条第1項第1号，第2号及び第4号の特別任用教員の任用期間は3年とし，その任用期限は，満70歳に達した年度末までとする。ただし，教授会が必要と認める場合には，任用期間終了後も任用期限まで，3年ごとの任用期間の更新を行うことができる。

2 前項の規定にかかわらず，当該特別任用教員が所属する大学院研究科委員会又は法務研究科教授会が必要と認める場合，2年以内に限り任用期限を延長することができる。

3 第2条第1項第3号の特別任用教員の任用期間は3年とし，その任用期限は，教授にあっては満70歳，准教授，講師，助教及び助手にあっては満65歳に達した年度末までとする。ただし，教授会が必要と認める場合には，任用期間終了後も任用期限まで，3年ごとの任用期間の更新を行うことができる。

4 第2条第1項第5号の特別任用教員の任用期間は3年とし，その任用期限は，教授にあっては満68歳，准教授，講師，助教及び助手（実験・実習講師及び実験・実習助手を含む）にあっては満65歳に達した年度末までとする。

(職務)

第5条 特別任用教員は，授業・研究・学生指導に従事することをその職務とする。

- 2 第2条第1項第1号及び第2号の特別任用教員の授業時間数は1週3コマ（6時間）とする。
- 3 第2条第1項第3号及び第5号の特別任用教員の授業担当時間数は「専任教員の担当授業時間数に関する基準」を準用する。ただし、別表の給与表において「特0」の支給を受ける特別任用教員の授業担当時間数は1週3コマ（6時間）とする。なお、実験・実習講師及び実験・実習助手の職務については別に定める。
- 4 第2条第1項第4号の特別任用教員の授業時間数は1週4コマ（8時間）とする。ただし、別表の給与表において「特Ⅱ」の支給を受ける特別任用教員の授業担当時間数は1週3コマ（6時間）とする。

（給与）

第6条 特別任用教員の給与は、別表の給与表により支給する。

- 2 給与表における等級・号俸の決定は、勤務条件・年齢・身分等を考慮して、当該教員所属教授会又は大学院研究科委員会の申請により、学長がこれを決定する。ただし、別表の給与表中、「特Ⅳ」の支給を受けることができる者は、第2条第1項第4号の特別任用教員に限る。
- 3 授業担当時間数が前条第2項、第3項及び第4項の時間数をこえる場合は、別に分担外手当を支給する。

（諸手当）

第7条 特別任用教員に、期末手当のほか給与規程の定めによる扶養家族手当、住宅手当、通勤手当を支給する。

- 2 期末手当は、前条第1項に規定する基本給及び扶養家族手当並びに分担外手当を支給の基礎とし、上半期手当1.5カ月分、下半期手当1.5カ月分を支給する。
- 3 分担外手当は、教授29,300円、准教授27,300円、講師・助教26,200円をそれぞれ支給する。

（帰国旅費）

第7条の2 海外から着任した特別任用教員で、大学が認めた時、部局長会の議を経て帰国旅費を支給する場合がある。

旅費の支給基準は、関西国際空港までは「国内旅費規程」（グリーン料金は支給しない）を準用し、関西国際空港から最寄りの空港まではエコノミーの実費とする。

（退職手当）

第8条 特別任用教員には、任用期間終了時に退職手当を支給する。任用期間終了時とは、本学の特別任用教員でなくなる時をいう。

- 2 前項の算定基準は、最終月の本俸月額×勤務年数×0.5とする。
- 3 前2項の規定にかかわらず、第12条によって懲戒解雇となった者には、退職手当を支給しない。

（解雇予告手当）

第9条 第12条に基づき解雇する場合は、30日前に予告するか、又は30日分の平均賃金を支給する。ただし、懲戒解雇の場合で行政監督庁の認定を受けたときは、この限りではない。

（教育研究費・個人研修費）

第10条 特別任用教員（実験・実習講師及び実験・実習助手を除く。）の教育研究費は、別に定める基準により支給する。

- 2 実験・実習講師及び実験・実習助手の個人研修費は、別に定める基準により支給する。

（社会保険）

第11条 特別任用教員については、日本私立学校振興・共済事業団の加入者となることができる。

(懲戒)

第12条 特別任用教員の懲戒に関する事項については、「学校法人龍谷大学就業規則」第5条第3項、第59条、第60条及び第61条の規定を準用する。

付 則

- 1 この規程は、昭和58年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行により、「特任教員規程」(昭和47年4月1日制定)に基づく任用者の契約事由が消滅した後は、同規程による新たな任用は行わない。
- 3 この規程の施行により、「特任教員規程」(昭和47年4月1日制定)は、昭和60年3月31日付をもって廃止する。

付 則(昭和59年3月10日第4条改正)

この規程は、昭和59年3月10日から施行する。

付 則(昭和63年7月21日第1条～第6条、第8条、第9条、別表改正)

- 1 この規程は、昭和64年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行により、施行日に継続中の特別任用教員の第8条第2項の算定基準は別に定める。

付 則(平成2年3月15日第4条第1項、同条第3項改正)

この規程は、平成2年4月1日から施行する。

付 則(平成3年3月7日第7条改正)

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

付 則(平成10年7月9日第10条改正)

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

付 則(平成11年3月4日第8条改正)

この規程は、平成11年3月4日から施行する。

付 則(平成13年3月1日第7条の2新設)

この規程は、平成13年3月1日から施行する。

付 則(平成13年6月21日第2条、第4条～第6条、別表、別記様式改正)

この規程は、平成13年6月21日から施行する。

付 則(平成14年12月5日第2条、第4条～第6条、第9条、別表、別記様式改正)

この規程は、平成14年12月5日から施行する。

なお、この規程にある英語教育特任講師に関する事項は、実施後3年間までとし、見直しを含め検討する。

付 則(平成16年1月15日第7条、別表改正)

- 1 この規程は、制定日から施行し、平成16年1月1日から適用する。
- 2 前項の規定にかかわらず、第7条の改正規定については、平成15年10月1日から適用する。

付 則(平成16年3月25日第2条、第4条、第5条、別表、別記様式改正)

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

付 則(平成17年3月10日第2条、第4条、第5条、別表、別記様式改正)

- 1 この規程は、平成17年3月10日から施行する。
- 2 この規程において、大学院法務研究科が開設されるまでは、法務研究科教授会を法科大

学院設置委員会に読み替えるものとする。

付 則（平成19年3月8日第2条，第4条，第5条～第7条，第9条，別表改正）

- 1 この規程は，平成19年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行にともない，従前の助教授は，この規程による准教授になるものとする。
- 3 この規程の施行にともない，英語教育特任講師に関する細則（制定 平成14年12月12日）は廃止する。

付 則（平成20年7月24日第8条改正，第11条新設）

この規程は，平成20年7月24日から施行する。

付 則（平成21年2月20日第8条改正，旧第9条，旧第10条，旧第11条繰下，第9条新設）

この規程は，平成21年2月20日から施行する。

別表（第6条関係）

特別任用教員給与表

等級 号俸	I 教授	II 准教授	III 講師・助教・ 助手	IV 実験・実験講 師及び実験・実習 助手	適用条項
特0	教育職員 I 等級47号俸の 40%				第2条第1項第3号のうち， 大学の事情により特に就 任を要請した者
特I	教育職員 I 等級47号俸の 50%	教育職員 II 等級35号俸の 50%	教育職員 III 等級21号俸の 50%	教育職員 VI 等級16号俸の 50%	第2条第1項第3号及び第5 号
特II	教育職員 I 等級47号俸の 60%				第2条第1項第1号及び第2 号のうち，主として大学院 の講義を担当する者又は 同条同項第4号のうち，1週 3コマ（6時間）担当の者
特III	教育職員 I 等級47号俸の 70%				第2条第1項第1号及び第2 号のうち，大学の事情によ り特に就任を要請した者
特IV	教育職員 I 等級47号俸の 80%				第2条第1項第4号のうち，1 週4コマ（8時間）担当の者

別記様式（第3条関係）

特別任用教員就任承諾書

私は，龍谷大学〇〇〇（短期大学部を含む）学部の特任教員として，〇〇年〇〇月〇〇日から，〇〇年〇〇月〇〇日まで就任することを承諾いたします。

〇〇年〇〇月〇〇日

龍谷大学
学長 殿

署名 捺印